

2022 年度

講義要綱 *(Syllabus)*

〈口腔保健学科〉

神戸常盤大学短期大学部

KOBE TOKIWA JUNIOR COLLEGE

口腔保健学科

目 次

1. 2年次開設科目	1
2. 3年次開設科目	75

索引

【2年次】	【3年次】	
コンピュータ演習Ⅱ	1 プレゼンテーション技法	75
生命倫理	3 生涯発達論	78
くらしと法律	6 遺伝子と再生医療	81
地球と環境	9 歯科医療と法律・制度	83
口腔健康統計学	11 災害援助と救急医療	85
社会福祉総論	14 医療情報システム学	88
臨床歯科Ⅲ（口腔外科・歯科放射線）	16 歯科医療と経済	91
臨床歯科Ⅳ（小児歯科）	20 歯科保健指導演習Ⅳ	93
臨床歯科Ⅴ（矯正歯科）	23 歯科衛生過程演習	97
臨床歯科Ⅵ（高齢者・障害者）	26 地域口腔保健支援実習Ⅰ	100
臨床検査学	28 地域口腔保健支援実習Ⅱ	103
歯科診療補助演習Ⅱ	30 診療補助実習Ⅱ	106
歯科診療補助演習Ⅲ	33 口腔保健衛生学実習Ⅱ	109
オーラルリハビリテーション	36 災害時の歯科衛生士の働き	112
オーラルリハビリテーション演習	38 ボランティアの理論と実践	116
歯科衛生過程Ⅱ	41 コミュニカティブ イングリッシュ	119
コミュニケーション・医療面接	45 海外研修	122
栄養指導法	48 口腔保健特論Ⅰ	124
歯科予防処置演習AⅡ（う蝕）	51 口腔保健特論Ⅱ	126
歯科予防処置演習BⅡ（歯周病）	54	
歯科保健指導演習Ⅱ	57	
歯科保健指導演習Ⅲ	60	
総合歯科実習	63	
診療補助実習Ⅰ	66	
口腔保健衛生学実習Ⅰ	69	
地域との協働B	72	

授業科目名 (コード番号)		授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
コンピュータ演習Ⅱ (O21040)		演習	1	30	2	前期	必修	—	笹井隆邦	7号館5階 研究室
自由なテーマでスライドを作成し発表									単独担当	
科目担当者	笹井隆邦									

授業の概要	学内では実習終了時での発表会、就職した後での集团的指導などでプレゼンテーションを行う機会が増加している。この授業ではそのような機会に利用されるプレゼンテーションソフトの使い方について学ぶ。また、静止画や動画を取り込み、プレゼンテーションに利用することによってそれらを利用しないときに比べよりわかりやすく説明することができる。そこで静止画や動画を編集して発表用スライドに組み込み、実際にプレゼンテーションを行えることを目標とする。	
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス Windows10 の操作	【事前】 パスワードの準備 【事後】 Windows10 の操作
第 2 回	デジタルカメラ・スマートフォン等から画像のデータ取り込み・編集	【事前】 取り込むデータの準備 【事後】 PC にデータを取り込む
第 3 回	スキャナーによるデータの取り込み・編集	【事前】 取り込むデータの準備 【事後】 スライドのテーマを考える
第 4 回	ペイントの利用	【事前】 ペイントについて調べる 【事後】 イラストの作成
第 5 回	PowerPoint の操作	【事前】 PowerPoint とは何か 【事後】 操作の練習
第 6 回	スライドの作成Ⅰ（画像の貼り付け）	【事前】 写真の選定 【事後】 スライドの構成を考える
第 7 回	スライドの作成Ⅱ（構成）	【事前】 写真の選定・画像の貼り付け 【事後】 スライドの構成を考える
第 8 回	スライドの作成Ⅲ（ペイント）	【事前】 ペイントの操作について 【事後】 スライド用ペイントの作成
第 9 回	スライドの作成Ⅳ（アニメーションの設定）	【事前】 アニメーションについて 【事後】 アニメーションの練習
第 10 回	スライドの作成Ⅴ（プレゼンテーションの練習→スライドの修正）	【事前】 スライドの修正について 【事後】 スライドの仕上げ
第 11 回	スライドの作成Ⅵ（プレゼンテーションの練習）	【事前】 プレゼンテーションの内容の確認 【事後】 プレゼンテーションの練習
第 12 回	プレゼンテーションの実行Ⅰ（1 班）	【事前】 プレゼンテーションの練習 【事後】 振り返り
第 13 回	プレゼンテーションの実行Ⅱ（2 班）	【事前】 プレゼンテーションの練習 【事後】 振り返り
第 14 回	プレゼンテーションの実行Ⅲ（3 班）	【事前】 プレゼンテーションの練習 【事後】 振り返り
第 15 回	プレゼンテーションの振り返り	【事前】 レポートの準備 【事後】 レポートの作成

学修の到達目標
PowerPoint の基本操作をマスターし、プレゼンテーションをする。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①必要な情報を収集し パワーポイントで活用することができる (情報力)	秀	必要な情報をネットから収集し パワーポイントの様々な場面で活用することができる。
	優	必要な情報をネットから収集し パワーポイントでかなり活用することができる。
	良	必要な情報をネットから収集し パワーポイントで活用することができる。
	可	必要な情報をネットから収集することができる。
	不可	必要な情報をネットから収集することができない。
②パワーポイントを利用して伝えたいことをわかりやすく表現できる (表現力)	秀	パワーポイントを利用して各自のテーマを多くの仲間にわかりやすく伝えることができる。
	優	パワーポイントを利用して各自のテーマをわかりやすく伝えることができる。
	良	パワーポイントを利用して各自のテーマを伝えることができる。
	可	パワーポイントを利用して各自のテーマについて発表する。
	不可	パワーポイントを利用して各自のテーマについて発表することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	40	30	0	0	0	100
評価項目	① パワーポイントでスライド作成	30	40	0	0	0	0	70
	② プレゼンテーション	0	0	30	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	レポート試験
	②	
提出物	① レ	毎回の成果を提出・スライドデータを提出
	②	
成果発表 (口頭・実技)	①	プレゼンテーション
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
各自が興味を持って、積極的にスライドを作成し、プレゼンテーションを行うことが大事である。
教科書・参考書
教科書：使用しません 参考書：『例題 50 + 演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版』 定平誠 技術評論社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
生命倫理 (O21110)		講義	2	30	2	前期	必修	—	森本誠一	4号館2階 非常勤講師 控室
医療にまつわる倫理学									単独担当	
科目担当者	森本誠一									

授業の概要	この授業では、安楽死、臓器移植、生殖補助医療、人工妊娠中絶など、現代の医療を取り巻く状況の中で生じてくる生命・医療倫理学上の問題について私たちがどうあるべきなのかを学修します。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	導入・現代の医療を取り巻く状況	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 2 回	生命・医療倫理学の歴史	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 3 回	医療倫理の四原則、患者中心の医療	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 4 回	治療の中断をめぐる諸問題：命に関わるような治療の中断も許されるのか？	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 5 回	安楽死・尊厳死・セデーション	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 6 回	臓器移植と人身売買	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 7 回	脳死者からの臓器移植	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 8 回	中間のふり返り	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 9 回	生殖補助医療	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 10 回	人工授精・体外受精・顕微授精	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 11 回	代理出産、子宮頸がんワクチンをめぐる問題	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 12 回	出生前診断・着床前診断・新型出生前検査	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 13 回	人工妊娠中絶	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 14 回	身体拘束をめぐる倫理的問題	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理
第 15 回	全体のふり返り	【事前】新聞で関連する記事をチェック 【事後】講義資料の整理

学修の到達目標	
この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。(1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる、(2) 現代の医療を取り巻く社会的状況について理解し説明できる、(3) 現代の医療を取り巻く社会的状況の中で生じてくる生命・医療倫理学上の問題について理解し、倫理的な観点から問題を整理して考えられる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
②根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
③物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
④情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたいのかわからない。
⑤他者の声に耳を傾け、創造的な対話を行うことができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	30	0	0	0	0	100
評価項目	① 情報力	14	6	0	0	0	0	20
	② 論理的思考力	14	6	0	0	0	0	20
	③ 批判的思考力	14	6	0	0	0	0	20
	④ 判断力	14	6	0	0	0	0	20
	⑤ 傾聴力・対話力	14	6	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	ノート・講義資料持ち込み不可の筆記試験を期末に実施。問題は一定の文章を読んで空欄補充や語句の説明をする総合問題。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
提出物	①	レ	授業後に毎回リフレクションペーパーを提出。授業と関連するテーマの新聞記事（紙面版に限る）をスクラップし、それをもとにレポートを1回提出。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
決して堅苦しい雰囲気での授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起きているのか知らなければ倫理的な善悪、正不正について判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版』、全国歯科衛生士教育協議会、医歯薬出版株式会社 参考書：授業内で適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
くらしと法律 (O21210)	講 義	2	30	2	前 期	選 択 必 修	—	佐野光彦	4号館2階 非常勤講師 控室
私たちの生活に法律をいかす								単独担当	
科目担当者	佐野光彦								

授業の概要	私たちが日常生活を送る場合には、様々なルールを意識しています。ルール＝規範には、常識、習慣、道徳などが含まれます。また、法律も規範の中では大きなウェイトを占めています。コミュニティの絆が弱くなってきた現代の日本社会では、隣人関係、職場、学校など様々な場所で私たちはトラブルに巻き込まれる可能性が高まって来ました。まさに訴訟社会になりつつあると言えるのではないのでしょうか。 そこで本講義では、知らなかったでは許されない法律の基礎を学び、合わせて法的な問題と倫理との関係についても、みなさんと一緒に考えて見ようと思います。そして、みなさんが社会を構成する一員として、基本的な法律知識を身につけ、それを生かすことができるようになることをねらいとします。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) (レ) その他(独自開発のスマホクリッカー)

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	私たちと法律とのかかわり―法とは何か？を考える (規範、法源、裁判)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 2 回	法律はどのようにしてできるのかを考える① ―国家と法との関係(立憲主義、三権分立など)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 3 回	法律はどのようにしてできるのかを考える② ―国家と法との関係(日本国憲法、基本的人権)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 4 回	人はなぜ罪を犯すと罰せられるのかを考える① ―刑法と私たち(罪刑法定主義、犯罪成立要件)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 5 回	人はなぜ罪を犯すと罰せられるのかを考える②―刑法と私たち (裁判員裁判、死刑廃止、冤罪)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 6 回	愛がはじまる時、終わるとき―男と女の問題を考える(結婚、離婚、家族、夫婦別姓)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 7 回	親子関係は変化してきたのかを考える① ―子どもは親を選べない(児童虐待、扶養、相続)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 8 回	親子関係は変化してきたのかを考える②―生殖医療の弊害？ (代理母、人工授精、体外受精)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 9 回	契約って何だろう？かについて考える① ―民法と私たち(民法の基本原則、契約)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 10 回	契約って何だろう？かについて考える① ―民法と私たち(民法の基本原則、契約)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 11 回	医療と法律とのかかわりを考える① ―医療過誤、薬害など(過失、損害賠償)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 12 回	医療と法律とのかかわりを考える② ―臓器移植問題(違法阻却、生命倫理、臓器移植法)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 13 回	私たちの日常生活と法律について考える ―悪徳商法などから身を守る(クレジット、連帯保証)	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
第 14 回	まとめ①―私たちの生活に法律を	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す

第 15 回	まとめ②—テスト対策など	【事前】 最近のニュースをチェック 【事後】 配布物等を読み返す
--------	--------------	-------------------------------------

学修の到達目標
1. 基礎的な法律用語を説明することができる。日常生活上での様々な（法律）手続ができるようになる。 2. 歯科衛生士として要求される社会的教養の修得を目指し、歯科衛生士としての資質の向上を目標とする。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わる ことのできる人間性の 基盤として教養を身 につけている (教養)	秀	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関する知識を十分に修得・理解するだけでなく、さらなる理解を深め、かつその内容が秀逸である。
	優	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関して十分に知識を修得・理解するだけでなく、さらなる理解を深めようとしている。
	良	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関して十分に知識を修得・理解している。
	可	臨床検査・看護・教育・口腔保健等、自らの専門領域に加えて、当該授業科目に関する知識を修得し、理解しようと努力している。
	不可	当該授業科目に関する知識・理解を修得しようという努力が見られない。
②社会の一員として知 っておくべき法律の 知識等・振る舞いを 身につけている (常識力)	秀	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させ、様々な場面で他者と深く交流できる。
	優	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、人間関係のあらゆる場面で十分に発揮させることができる。
	良	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、人間関係の多くの場面で発揮させることができる。
	可	一般常識、法律知識や礼儀等の社会性を、馴染みのある限られた人間関係の中では機能させることができる。
	不可	一般常識、法律意識や礼儀等の社会性が身についていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	20	0	0	0	100
評価項目	① 教養	30	10	10	0	0	0	50
	② 常識力	30	10	10	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験を実施します。
	② レ	
提出物	① レ	レポート、コメントペーパーの提出を課します。
	② レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	授業中の質疑、発表をお願いします。
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
講義時にレジュメ、資料等を配布しますので、紛失しない様に保管して下さい。また、レジュメには講義の内容をどんどん書き込んで下さい。現代日本社会の様々な法律的な問題を共に考えましょう！
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：講義の中で提示します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
地球と環境 (O2I220)		講 義	2	30	2	前 期	選 択 必 修	—	笹井隆邦	7 号館 5 階 研究室
自然環境に興味を持とう									単独担当	
科目担当者	笹井隆邦									

授業の概要	現在、地球を取り巻く環境が深刻な状況になってきている。例えば地球温暖化、森林破壊、砂漠化などである。また、我々の周りには健康を脅かす様々な化学物質、電磁波等が溢れている。それらについて、現状、原因物質、影響、対策等を紹介し、環境問題について理解を深めたい。 また、自然に親しむため、可能な限り身近な生物を持ってくるのでガイダンス・生物を分類してみよう実際に触れてもらいたい。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス・生物を分類してみよう	【事前】 特になし 【事後】 気になる生物の分類群を調べてみよう
第 2 回	生態系と生物多様性（地球上にヒトばかりでは生きていけない）	【事前】 生態系について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 3 回	共生（あなたは 100 兆個の微生物と共生しているらしい）	【事前】 共生について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 4 回	外来生物（日本に昔からいる生きものが絶滅の危機に）	【事前】 外来生物について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 5 回	種の絶滅と生物多様性（970 年以降、陸、海、淡水の自然の豊かさは 58%減少したらしい）	【事前】 絶滅危惧種について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 6 回	地球温暖化による生態系への影響（地球の温暖化により多くの生物に影響が及んでいる）	【事前】 温暖化について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 7 回	森林の減少と砂漠化（毎年兵庫県の面積の 6 倍の森林が消失している）	【事前】 砂漠化について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 8 回	ゲンジボタルの生態（光る生物は何のために光っているのだろうか？）	【事前】 光る生物について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 9 回	里山・里海（里山ってどんなイメージ？）	【事前】 里山について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 10 回	ビオトープ（池だけがビオトープではない）	【事前】 ビオトープについて予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 11 回	酸性雨（トマトジュースくらいの酸性の雨が降っている）	【事前】 酸性雨について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 12 回	食品添加物（そのお菓子、毎日食べて大丈夫？）	【事前】 食品添加物について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 13 回	合成洗剤と化粧品（女性は一生に 7 本の口紅を食べている？）	【事前】 合成洗剤について予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 14 回	シックハウス・電磁波（新築の家が原因で体調不良？）	【事前】 シックハウスについて予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト
第 15 回	自然エネルギー（我々はどのように生活すればいいのだろう）	【事前】 自然エネルギーについて予備知識を得よう 【事後】 manaba 小テスト

学修の到達目標
生態系や環境問題・健康について理解を深める。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①環境問題や健康に関する基本的な知識を習得している (教養・継続力)	秀	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	様々な環境問題についての知見のみにとどまっている。
	不可	様々な環境問題についての知見が不十分である。
②環境問題を改善するために考え行動することができる (貢献力)	秀	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し、行動している。
	優	環境問題を改善するために、何らかの形で学修を継続している。
	良	環境問題を改善するために、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	環境問題を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	環境問題を改善するための知見が不十分である。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	70	0	0	0	0	100
評価項目	① 環境問題や健康に関する基本的知識の習得	20	60	0	0	0	0	80
	② 自然環境を改善するための行動	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	レポート試験を実施する
	② レ	
提出物	① レ	基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
環境問題に興味を持つ
教科書・参考書
教科書：使用しません。 参考書：随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔健康統計学 (O22130)	演習	1	30	2	前期	必修	—	玉川裕夫	4号館2階 非常勤講師 控室
患者さんに伝える Evidence を学ぶ								単独担当	
科目担当者	玉川裕夫								

授業の概要	現代医療では、Evidence-based medicine (EBM) という概念が広く受け入れられ、専門職である歯科衛生士は、予防処置や歯科保健指導など様々な状況下で EBM の実践が求められる。口腔健康統計学では、歯科疾患の疫学や歯科衛生統計の実データをもとに自ら思考し、診療現場で有用な Evidence を収集・選択・評価する能力を身につけることを目的とする。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ (無)) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	疫学概論	【事前】 シラバスに目を通しておく 【事後】 疫学の考え方を整理する
第 2 回	統計概論（一般衛生統計）	【事前】 第 1 回目配布資料を見直しておく 【事後】 疫学と統計の違いを整理する
第 3 回	う蝕の疫学	【事前】 う蝕の成因を確認しておく 【事後】 う蝕の疫学的特徴を整理する
第 4 回	歯周疾患の疫学	【事前】 歯周病の成因を確認しておく 【事後】 歯周疾患の疫学的特徴を整理する
第 5 回	その他の疾病の疫学、歯科疾患実態調査	【事前】 歯科の疫学指標について復習しておく 【事後】 配布資料を完成しておく
第 6 回	歯科衛生統計①（基礎統計量）	【事前】 第 5 回目配布資料を見直しておく 【事後】 統計学の基礎用語について整理する
第 7 回	歯科衛生統計②（統計処理）	【事前】 第 6 回目配布資料を見直しておく 【事後】 統計処理の方法について整理する
第 8 回	歯科衛生統計③（演習結果発表テーマの検討）	【事前】 第 7 回目配布資料を見直しておく 【事後】 発表テーマの情報収集方法を整理する
第 9 回	演習：資料収集①（オリジナルデータの収集）	【事前】 厚生労働省のサイトについて知っておく 【事後】 発表テーマに関する情報収集源を整理する
第 10 回	演習：資料収集②（収集済みデータの整理と加工）	【事前】 厚生労働省が持つデータについて知っておく 【事後】 収集したデータの加工法について整理する
第 11 回	演習：発表準備①（プレゼンテーションファイル準備）	【事前】 オフィスソフトの連携について知っておく 【事後】 プレゼンテーションの進捗を把握する
第 12 回	演習：発表準備②（プレゼンテーション個人予行演習）	【事前】 予行演習の意義を知っておく 【事後】 予行演習の結果を整理する
第 13 回	発表①（前半学生プレゼンテーション、学生相互評価）	【事前】 発表内容を予習しておく 【事後】 相互評価について整理する
第 14 回	発表②（後半学生プレゼンテーション、学生相互評価）	【事前】 発表内容を予習しておく 【事後】 相互評価について整理する
第 15 回	まとめ（プレゼンテーションの評価）	【事前】 第 15 回までの資料に目を通しておく 【事後】 統計処理の用語と概念について整理する

学修の到達目標	
・歯科疾患の疫学的特徴を列挙できる。 ・歯科衛生統計の各種指標を説明できる。 ・統計学的指標の概要を説明できる。 ・歯科の疫学情報について収集・選択・評価の体系を説明できる。 ・自ら収集した情報を使ったプレゼンテーションができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、愉しさと喜びを 覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修でき、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。それらの経験から、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修につなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、に、愉しさと喜びを覚えることができない。
②物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする ことができる (探究力)	秀	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
③思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
④根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
⑤想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとっても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	10	20	10	0	0	100
評価項目	① 知欲	30	0	0	0	0	0	30
	② 探求力	0	10	0	0	0	0	10
	③ 情報力	15	0	10	0	0	0	25
	④ 論理的思考力	15	0	0	5	0	0	20
	⑤ 表現力	0	0	10	5	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
提出物	①		毎回の授業終了時に提出するレポート
	②	レ	
	③		
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		毎回の授業開始時、授業中、終了時に提出するレポート
	②		
	③	レ	
	④		
	⑤	レ	
作品	①		プレゼンテーション原稿の内容
	②		
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
インターネット上にある各種情報を正しく判断できる基礎的知識を身につけておくこと、それらを患者さんにわかりやすいようにどう説明するか、日頃から考えておくことさらに良い。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 保健情報統計学』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 教科書内容の要点を講義資料として適宜配布する。 参考書：『ビジュアル歯科保健医療統計学』安井利一 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
社会福祉総論 (O22140)		講 義	1	15	2	前 期	必 修	—	川島芳雄	4号館2階 非常勤講師 控室
子ども、高齢者、障害者等を 支援するための知識と方法									単独担当	
科目担当者	川島芳雄									

授業の概要	口腔保健活動の対象には、子ども、高齢者、障害者、生活困窮者など、対応に際して理解と配慮が必要な人びとが少なくない。授業では、対象別にそれらの人びとが実生活でどのような困難を経験しているかを知り、その軽減のための社会福祉の支援の施策や援助方法を学び、より有意な口腔保健活動を実践していくための基礎づくりを図る。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	日本型社会保障制度の仕組み（社会保険と社会福祉）	【事前】テキスト 1-1 ～ 1-5 を読んでおく（以下同様） 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する
第 2 回	子育て支援、ひとり親家庭の支援（児童福祉、母子福祉）	【事前】テキスト 4-1 ～ 5-4 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する
第 3 回	高齢者の生活と介護の保障（高齢者福祉、介護保険）	【事前】テキスト 6-1 ～ 6-4、3-5 ～ 3-6 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する
第 4 回	障害者の福祉と自立支援①（身体障害者福祉、知的障害者福祉）	【事前】テキスト 7-1 ～ 7-2、7-5 ～ 7-8 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する
第 5 回	障害者の福祉と自立支援②（精神障害者保健福祉、発達障害者支援）	【事前】テキスト 7-3 ～ 7-4 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する
第 6 回	貧困に対する生活保障（生活困窮者自立支援、生活保護）	【事前】テキスト 8-1 ～ 8-5 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する
第 7 回	社会福祉的援助の方法①（ケースワークの方法）	【事前】テキスト 2-1 ～ 2-2、2-5 ～ 2-7 【事後】レジュメ書き込みのメ、を整理・清書する
第 8 回	社会福祉的援助の方法②（グループワークの方法）	【事前】テキスト 2-3 ～ 2-4 【事後】レジュメ書き込みのメモを整理・清書する

学修の到達目標	
①日本の社会保障制度の全体的な仕組み（二層構造）が理解できている。	
②子どもや高齢者、障害者などの特性を理解し、適切な対応について自分で考えられるようになる。	
③対象別の社会福祉制度に関する基礎的な知識を習得し、さらに歯科衛生士国家試験に備えて自学自習が継続できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①専門的職務遂行に必要な知識・方法を身につけている (専門力)	秀	社会福祉領域についての知識・方法を両方とも十分なレベルで身につけている。尚且つ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	社会福祉領域についての知識・方法を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	社会福祉領域についての知識・方法を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	社会福祉領域についての知識・方法を身につけている。
	不可	社会福祉領域についての知識・方法を身につけていない。
②基礎知識を拠りどころに、自分で論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	基礎知識を拠りどころに、十分論理的に考えることができる。尚且つ、基礎知識の限界も分かっている、自らの思考内容のみでは決して十分でないことを認識している。
	優	基礎知識を拠りどころに、十分論理的に考えることができる。
	良	基礎知識を拠りどころに、論理的に考えることができる。
	可	基礎知識を拠りどころに、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	基礎知識を拠りどころに、論理的に考えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門的知識・方法	50	20	0	0	0	0	70
	② 論理的に考える	30	0	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	記述式の試験を学期末に行う。 (自分で整理したレジュメ集のみ持ち込み可能。テキスト、参考書の持ち込みは不可。)
	② レ	
提出物	① レ	毎回の授業開始直後の 10 分間に、前回の学習内容に関するミニレポート (ミニレポート用紙は当日配布、自分で整理したレジュメ集を見ながら書いても良い) を作成し提出する。
	②	

履修に必要な知識・技能など
高校卒業程度の全般的基礎学力があれば、十分理解し習得できる。
教科書・参考書
教科書:「保健医療福祉職に必要な社会福祉学」 川島芳雄著 2017 年 丸善プラネット 参考書:「社会保障の手引き」(最新版) 中央法規

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科Ⅲ（口腔外科・歯科放射線） (O23030)	講義	2	60	2	前期	必修	—	森谷徳文	5号館3階 研究室
歯科外科領域全般を理解しよう								複数担当	
科目担当者	森谷徳文、八木孝和								

授業の概要	口腔外科学・歯科麻酔学・歯科放射線学は全身の関わりが深い分野であり、これらの医学知識を習得することは有病患者に対する的確な口腔機能管理を实践するうえで基盤となる。歯科医療スタッフだけでなく他の保健、医療、福祉（介護）関係者とともにチーム医療の一翼を担い、地域社会に貢献できる歯科衛生士を目指す。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT（manaba）活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☒ 反転授業	☒ ICT（manaba）活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習（外部協定 有 ・ 無 ） ☐ その他（ ）

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	口腔外科学概論（担当者：森谷）	【事前】シラバスに目を通す 【事後】講義ノート、教科書を再読すること
第 2 回	口腔と全身の関連—菌性感染症の全身への影響（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 3 回	口腔と全身の関連—全身疾患の口腔症状（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 4 回	口腔外科における診査・検査・薬剤（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 5 回	口腔の先天異常（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 6 回	口腔・顎顔面領域の損傷（顎骨骨折など）（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 7 回	口腔・顎顔面領域の炎症（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 8 回	口腔粘膜疾患（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 9 回	口腔・顎顔面領域の嚢胞（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 10 回	口腔・顎顔面領域の腫瘍（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 11 回	唾液腺疾患（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 12 回	神経疾患・血液疾患（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 13 回	口腔の小手術—抜歯・歯根端切除・創傷治癒（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 14 回	口腔の小手術—インプラント（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること
第 15 回	口腔外科学のまとめ（担当者：森谷）	【事前】予め教科書に目を通すこと 【事後】講義ノート、教科書の該当部を再読すること

第 16 回	歯科医療と放射線 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 17 回	放射線の性質 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 18 回	歯科臨床におけるエックス線検査の種類と特徴 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 19 回	口内法 X 線写真の読影 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 20 回	パノラマ X 線写真の撮影と読影 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 21 回	写真処理と画像保存の実際 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 22 回	放射線治療・周術期の口腔機能管理 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 23 回	人体（全身）観察実習 (担当者：森谷、八木)	【事前】 予め 1 年時の資料に目を通すこと 【事後】 見学実習に対する抱負を記述すること
第 24 回	顎・顔面・口腔内観察実習 (担当者：森谷、八木)	【事前】 予め 1 年時の資料に目を通すこと 【事後】 見学実習内容をまとめること
第 25 回	麻酔学（全身管理学）概論 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 26 回	局所麻酔 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 27 回	全身麻酔（精神鎮静法） (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 28 回	周術期の全身管理 (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 29 回	一次救命処置講義（市民救命士講義） (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること
第 30 回	歯科麻酔学のまとめ (担当者：森谷)	【事前】 予め教科書・manaba の配布資料に目を通すこと 【事後】 まとめの作成、教科書の該当部を再読すること

学修の到達目標	
歯科衛生士を目指す上で、必要な臨床知識を習得するために下記の内容について「できる」ことを目指す。 1. 顎顔面領域に発生する疾患を概説できる。 2. 全身疾患と口腔の関連について概説できる。 3. 全身麻酔法、局所麻酔法、精神鎮静法について説明できる。 4. 全身管理の知識および一次救命処置の手順が説明、実施できる。 5. 放射線の性質、人体への影響、被曝防護について説明できる。 6. 歯、顎顔面領域の画像検査の種類、特長、適応と手順について概説できる。 7. パノラマ、口内法標準 X 線写真の正常画像およびう蝕、歯周病の画像について読影ができる。 8. 周術期口腔機能管理について概説できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①口腔外科学・歯科麻酔学、歯科放射線学の知識を身につけている (専門力)	秀	当該専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	当該専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	当該専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	当該専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	当該専門領域についての知識を身につけていない。
②口腔外科・麻酔、放射線領域の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	当該専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	当該専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	当該専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	当該専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	当該専門領域について論理的に考えることができない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	50	10	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	10	10	0	0	0	0	20
	③ 知欲	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
提出物	①		小テスト、課題レポート：課題レポートの中には「まとめレポート」が含まれますが、このレポートは当日の講義に出席した学生のみ提出が許可されます。提出物の期限は厳守してください。
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		受講態度：各回、同じ内容はありませんので、積極的に発言し、自らの知識を深めること
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能など
本講義は、1年次の解剖、生理、薬理、病理学、微生物学などが基礎になっている。事前に指示された専門基礎科目の復習を必ず行うこと。必要と感じたことはノートにまとめること。講義中の私語は厳禁である。 臨地実習前の時期に当たることも考えて、実際の臨床現場に臨むことをイメージしながら講義に望むこと。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『歯科衛生士テキスト 歯科麻酔学・全身管理学』佐久間泰司 編 学建書院 参考書：『常用歯科辞典 第4版』中原泉 医歯薬出版 『新・歯科衛生士教育マニュアル 口腔外科学・歯科麻酔学』池邊哲郎 編 クインテッセンス出版 『歯科衛生士のための口腔外科学』古森孝英 編 永末書店

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科Ⅳ（小児歯科） (O23040)	講 義	1	30	2	前 期	必 修	—	竹内幸雄	4 号館 2 階 非常勤講師 控室
小児歯科って楽しい！								複数担当	
科目担当者	竹内幸雄、井上治子								

授業の概要	小児の発育過程における、精神的・身体的特徴を理解し、小児特有の口腔疾患について学ぶ。 小児歯科診療に際し、小児患者の診療補助や保護者との接し方を学ぶ。	
アクティブ・ ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	小児歯科総論（小児歯科とは） 小児の心身の発達と生理的特徴 顎顔面と歯の発育と異常 (担当者：竹内)	【事前】教科書 P 6 ～ 42 を読んでおく 【事後】配布資料と講義の内容を復習しておくこと
第 2 回	歯列咬合の発達と異常 小児歯科疾患：乳歯のう蝕・永久歯のう蝕 (担当者：竹内)	【事前】教科書 P43 ～ 58 を読んでおく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 3 回	小児の歯科疾患 (担当者：竹内)	【事前】教科書 P 58 ～ 65 を読んでおく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 4 回	小児歯科における診療補助 歯冠修復処置 レジン充填・乳歯冠 (担当者：竹内)	【事前】教科書 P 110 ～ 123 を読んでおく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 5 回	小児歯科における診療補助 歯内療法・外科処置・咬合誘導・フッ素 (担当者：竹内)	【事前】教科書 P 124 ～ 151 を読んでおく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 6 回	小児歯科診療における小児患者との対応法Ⅰ マネージメント（行動変容法を学ぶ） (担当者：竹内)	【事前】教科書 P 78 ～ 91 を読んでおく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 7 回	小児歯科診療における小児患者との対応法Ⅱ （障害児との対応法） (担当者：竹内)	【事前】教科書 P 78 ～ 91、P 154 ～ 168 を読んでおく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 8 回	小児う蝕の原因を考える (担当者：竹内)	【事前】事前に虫歯の原因を考えておく 【事後】講義の内容を復習しておくこと
第 9 回	小児歯科歯科衛生士として だから小児歯科っておもしろい！その 1 ～小児歯科ってどんなところ？～ (担当者：井上)	【事前】配布資料に目を通しておく 【事後】配布資料の復習
第 10 回	小児歯科歯科衛生士として だから小児歯科っておもしろい！その 2 ～治療もまた楽し！診療補助における役割～ (担当者：井上)	【事前】配布資料に目を通しておく 【事後】配布資料と講義の内容を復習しておくこと
第 11 回	小児歯科歯科衛生士として だから小児歯科っておもしろい！その 3 ～齲蝕予防は刑事ドラマのように―― う蝕予防刑事になって捜査する！ (担当者：井上)	【事前】配布資料に目を通しておく 【事後】配布資料と講義の内容を復習しておくこと
第 12 回	小児歯科歯科衛生士として だから歯科衛生士っておもしろい！その 4 ～身体・心・未来を育む～ (担当者：井上)	【事前】配布資料に目を通しておく 【事後】配布資料と講義の内容を復習しておくこと
第 13 回	小児歯科診療をスムーズに進めるために 小児患者と保護者との関わり方 (担当者：竹内)	【事前】配布資料に目を通しておく 【事後】配布資料と講義の内容を復習しておくこと

第 14 回	小児歯科診療における歯科衛生士の役割 (う蝕予防)、代用甘味料 小児歯科の診療風景 (ビデオを交えて) (担当者: 竹内)	【事前】 教科書 P 169 ~ 190 を読んでおく 【事後】 講義の内容を復習しておくこと
第 15 回	小児歯科講義のまとめ (担当者: 竹内)	【事前】 今までの講義について疑問点を整理しておく 【事後】 講義の内容を復習しておくこと

学修の到達目標	
1: 小児の成長発達を理解する 2: 各年齢の小児の口腔内の状態を正しく理解できる 3: 小児歯科診療における治療内容を理解し、必要な器具を準備できる 4: 小児患者の気持ちを理解し、必要な言葉がけが出来る。小児患者に寄り添える感性を持つことができる 5: 保護者に対しても正確な治療説明と適切な対応ができる 6: SNS やインターネットに氾濫する情報を正しく整理できる	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①小児歯科の診療に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	小児の専門領域の知識を十分に習得し技術を持っており内容が秀逸である
	優	小児の口腔専門領域の知識を十分に習得し技術を身につけている
	良	小児の口腔専門領域の知識と技術の一方を十分に身につけている
	可	小児の口腔専門領域の知識と技能を身につけている
	不可	小児の口腔専門領域の知識と技術を身につけていない
②小児患者や保護者とのコミュニケーションが取れる知識・対話力がある (対話力・表現力)	秀	学び知ること非常に積極性があり、表現力と他者への思いやりに対しても非常に優れている
	優	学び知ことに積極性があり、表現力と他者への思いやりが優れている
	良	学び知ことに積極性があり、表現力と他者への思いやりがある
	可	学び知ることが出来る 表現力または他者への思いやりやや難がある
	不可	学び知ことに意欲を感じられない 表現力と他者への思いやりが足りない
③他者と協力して物事を調べ上げる (知力・協調性・協働性)	秀	他者との協調性・協働性・表現力が非常に優れている
	優	他者との協調性・協働性・表現力が優れている
	良	他者との協調性・協働性・表現力がある
	可	他者との協調性・協働性・表現力の幾つかに努力が必要である
	不可	他者との協調性・協働性・表現力が足りない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	0	20	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	20	0	0	0	0	0	20
	③ 協働性・表現力	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験（教科書・講義資料から専門的知識・臨床における応用力をみる）
	②	レ	
	③		
成果発表 （口頭・実技）	①		グループワークによる表現力・協働力をみる
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能など	
問題意識をもって講義に臨むこと	
教科書・参考書	
教科書：【最新歯科衛生士教本 小児歯科】全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床歯科Ⅴ（矯正歯科） (O23050)	講義	1	30	2	前期	必修	—	八木孝和	5号館3階 研究室
きれいな歯並びと健康的な笑顔を								単独担当	
科目担当者	八木孝和								

授業の概要	矯正歯科治療は本来、予防歯科的な要素が強く、生涯にわたる口腔顎顔面の健康とその維持管理のために役立てられるべきものである。従って、単に歯並びを整える治療するだけにとどまらず、健康な歯に矯正歯科治療を行う過程においてう蝕を作らないことに努力しなければならない。また歯周組織の健全性を生涯にわたって維持管理できる環境を作り出さなければならない。歯科衛生士は歯科医師の診療を補助するだけにとどまらず、治療を成功に導くために患者全体像の把握や口腔衛生管理、食生活指導や口腔周囲筋のトレーニングを行うなど、その役割は大きい。本講義を通じて歯科矯正学の基礎知識を身につけるとともに、日常歯科矯正臨床に取り組む姿勢を身につけてもらいたいと考えている。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT（manaba）活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☒ 反転授業	☒ ICT（manaba）活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他（ ）

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正歯科治療の概要	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 2 回	矯正歯科治療に関する基礎知識 成長発育	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 3 回	矯正歯科治療に関する基礎知識 正常咬合と不正咬合	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 4 回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正歯科診断	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 5 回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正歯科治療と“力”・矯正力・顎整形力・保定	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 6 回	矯正歯科治療に関する基礎知識 矯正装置	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 7 回	矯正歯科治療の実際 上下顎前後・垂直的関係の不調和	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 8 回	矯正歯科治療の実際 成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 9 回	矯正歯科治療の実際 矯正歯科治療時のトラブルへの対応	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 10 回	矯正歯科治療の実際 健康保険が適用される矯正歯科治療	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 11 回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 矯正歯科診断に関わる業務と診断時の業務 2	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 12 回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 矯正歯科患者と口腔保健管理	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 13 回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 口腔筋機能訓練 1	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
第 14 回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 口腔筋機能訓練 2	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等

第 15 回	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割 器材、資料、文章の管理・まとめ	【事前】 manaba 配布資料と教科書の該当範囲の予習 【事後】 まとめの作成等
--------	---------------------------------------	--

学修の到達目標
歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解するために、下記内容の‘できる’を目指す。 1. 顎顔面及び歯・歯列の成長発育について様式と評価が説明できる 2. 乳歯列から永久歯列にかけての正常咬合が説明できる 3. 不正咬合の原因と種類が説明できる 4. 不正咬合による障害と矯正治療の目標が説明できる 5. 矯正力と歯の移動時の生体反応を説明できる 6. 矯正装置の種類、構造及び機能を説明できる 7. 矯正治療に用いる器材とその取扱いを説明できる 8. 矯正治療前、治療中および保定期間における口腔健康管理法を説明できる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科矯正学の知識を身につけている (専門力)	秀	歯科矯正学の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科矯正学の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科矯正学の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科矯正学の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科矯正学の専門領域についての知識を身につけていない。
② 矯正歯科治療の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	矯正歯科治療の専門領域について客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	優	矯正歯科治療の専門領域について客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	良	矯正歯科治療の専門領域について一定のレベルで論理的に考えることができる。
	可	矯正歯科治療の専門領域についてある程度論理的に考えることができるが十分ではない。
	不可	矯正歯科治療の専門領域について論理的に考えることができない。
③ 学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚 えることができる。 (知力)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	優	さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	良	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	不可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	40	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	40	10	0	0	0	0	50
	② 論理的思考力	10	20	0	0	0	0	30
	③ 知力	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②	レ	
	③		
提出物	①	レ	小テスト・まとめなどのレポートの提出：まとめレポートは出席者のみ点数として評価します。
	②	レ	
	③	レ	
その他	①		受講態度・積極的な発言
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能など	
私語厳禁、ただし質問は歓迎します。歯科領域の中でも形態や携帯から生まれる機能・審美を扱い、患者さんの主訴は痛みや炎症とは異なる領域になります。時には心理学的な要素が必要な時もあり、コミュニケーション能力も必要になってきます。また、実際の現場では技能的な能力を求められることも多く、治療に関する業務は歯科医師より歯科衛生士のほうが主体的な場面が多い分野です。専門用語が多いのでこまめに復習すること。	
教科書・参考書	
教科書：『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常 2 歯科矯正』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『歯科矯正学 第5版』相馬邦道他 編 医歯薬出版	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
臨床歯科Ⅵ（高齢者・障害者） （O23060）		講義	1	30	2	後期	必修	—	北垣志麻	4号館2階 非常勤講師 控室
障がい児・者、高齢者の口腔及び 全身の特徴を学ぶ									複数担当	
科目担当者	北垣志麻、駒井正									

授業の概要	老化について脳の機能と生活習慣病を関連させながら概説し、口腔ケアがどのようにかかわっているかを理解させる。障害の概念および障がい児・者の口腔の特徴と歯科疾患の特質を教授し、歯科衛生士として必要な知識を修得し、臨床に必要な技術を理解する。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT（manaba）活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT（manaba）活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定　有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	身体機能からみた老化 (担当者：駒井)	【事前】 参考文献を 1 つ選んで講義期間中に読む 【事後】 講義内容を教本で確認
第 2 回	内臓機能からみた老化 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第 3 回	認知症と健康寿命 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第 4 回	高齢者の睡眠と生活習慣病 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第 5 回	高齢者の口腔疾患と歯科医療 (担当者：駒井)	【事前】 資料冊子をみておく 【事後】 講義内容を教本で確認
第 6 回	地域包括ケアと歯科衛生士 (担当者：駒井)	【事前】 練習問題を解答しておく 【事後】 練習問題を復習する
第 7 回	障害者歯科概論 (担当者：北垣)	【事後】 資料を再読する
第 8 回	歯科医療で特別な支援が必要な疾患について (知的障害等) (担当者：北垣)	【事前】 教科書第 2 章を一読する 【事後】 資料を再読する
第 9 回	歯科医療で特別な支援が必要な疾患について (運動障害等) (担当者：北垣)	【事前】 教科書第 2 章を一読する 【事後】 資料を再読する
第 10 回	障害者の歯科医療と行動調整について (担当者：北垣)	【事前】 教科書第 3 章を一読する 【事後】 資料を再読する
第 11 回	障害者の歯科医療と行動調整について (担当者：北垣)	【事前】 教科書第 3 章を一読する 【事後】 資料を再読する
第 12 回	健康支援と口腔衛生管理について (担当者：北垣)	【事前】 教科書第 4 章を一読する 【事後】 資料を再読する
第 13 回	摂食嚥下リハビリテーションについて (担当者：北垣)	【事前】 教科書第 6 章を一読する 【事後】 資料を再読する
第 14 回	障害者と薬剤について (担当者：北垣)	【事前】 資料を一読する 【事後】 資料を再読する
第 15 回	まとめ (担当者：北垣)	【事前】 教科書、資料を再読する 【事後】 教科書、資料を熟読する

学修の到達目標
高齢者の精神・身体機能に及ぼす生活習慣の影響を理解し、歯科医療のなかでどのように対応していくか、を理解すること。 歯科衛生士として、歯と口腔だけでなく子どもから成人、高齢の障がい者について理解し、対応できるよう意欲的に受講すること。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な障害者歯科の基礎的な知識を身につける。 (専門力)	秀	歯科衛生士になるために必要な障がい者歯科の知識を確実に身につけている。
	優	歯科衛生士になるために必要な障がい者歯科の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士になるために必要な障がい者歯科の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士になるために必要な障がい者歯科の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士になるために必要な障がい者歯科の知識を身につけていない。
② 社会の一員として知っておくべき知識や振る舞いを身につける。 (常識力)	秀	一般常識や礼儀などの社会性を確実に発揮することができる。
	優	一般常識や礼儀などの社会性を十分に発揮することができる。
	良	一般常識や礼儀などの社会性を一定のレベルで発揮することができる。
	可	一般常識や礼儀などの社会性を最低限のレベルで発揮することができる。
	不可	一般常識や礼儀などの社会性を発揮することができていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	① 知識の修得	90	0	0	0	0	0	90
	① 常識力	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	練習問題を通じて理解を深めたうえで、選択形式の試験を行う。 筆記式定期試験を実施する。
	②	
その他	①	受講態度など
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
口腔ケアの理論を理解する医学的知識を「脳の機能」「睡眠の役割」「生活習慣病や認知症」をとおして理解させる。 体調管理に努め、欠席しないように受講すること。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 参考書：講師作成の教本に記載している刊行図書 『歯科衛生士のための障害者歯科』緒方克也 編 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
臨床検査学 (O23110)	講義	1	15	2	前期	必修	—	上原弘美	5号館3階 研究室
臨床検査は正確な診断の基礎								複数担当	
科目担当者	上原弘美、杉山育代、澤村暢								

授業の概要	臨床検査学の概念と口腔領域における日常検査について学修する。臨床検査によって全身状態及び口腔内環境を客観的に把握し、健康上の問題解決につなげるという、科学的根拠に基づいた口腔疾患の予防・治療計画の立案を的確に実践できるための基礎を養う。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	チーム医療の実践に必要な臨床検査 (担当者：上原)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第 2 回	歯科臨床における臨床検査の重要性と歯科衛生士の役割病理検査と検体採取後の流れ (担当者：上原)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第 3 回	生理機能検査 (担当者：杉山)	【事前】 生理機能検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第 4 回	一般検査 (血液検査)、感染症検査、血液型 (担当者：澤村)	【事前】 血液検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第 5 回	肝機能検査、糖尿病検査 (担当者：澤村)	【事前】 糖尿病の検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第 6 回	口腔領域の臨床検査 (唾液検査) (担当者：上原)	【事前】 唾液検査について教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる
第 7 回	口腔領域の臨床検査 (味覚検査・口臭検査・金属アレルギーの検査) (担当者：上原)	【事前】 味覚検査・口臭検査・金属アレルギー検査について調べる 【事後】 授業内容をまとめる
第 8 回	臨床検査データの読み方と疑われる疾患 (担当者：上原)	【事前】 教本を読む 【事後】 授業内容をまとめる

学修の到達目標
1. 歯科医療における臨床検査の必要性を述べることができる。 2. 臨床検査における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 臨床検査の種類を列挙することができる 4. 口腔領域の臨床検査の実施方法を説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	臨床検査についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床検査についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床検査についての基礎的な知識を身につけていて、十分なレベルに達している。
	可	臨床検査についての基礎的な知識を身につけている。
	不可	臨床検査についての基礎的な知識を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、 愉しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら愉しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら愉しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに愉しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	80	10	0	0	0	0	90
	② 知欲	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
	②	
提出物	① レ	到達度確認テスト (10点)
	② レ	受講後レポート (10点)

履修に必要な知識・技能など
授業は予習・復習を前提とします。授業の始め、または終わりに到達度確認のための小テストを実施しますので、積極的な姿勢で受講してください。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 臨床検査』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『口腔医療に必要な臨床検査－歯科治療には臨床検査ありき』井上孝 編集 デンタルダイヤモンド

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科診療補助演習Ⅱ (O23140)	演 習	2	60	2	前 期	必 修	—	澤田美佐緒	5号館3階 研究室
臨床の場面を想定した 歯科診療補助を学ぶ								複数担当	
科目担当者	澤田美佐緒、上原弘美、氏橋貴子								

授業の概要	1 年次科目の「歯科診療補助論」で学修した基礎的理論と「歯科診療補助演習Ⅰ」で習得した基礎的技術をもとに、臨床の場に応じて対応する能力を学ぶ授業です。歯科診療所における様々な診療場面を想定し、それぞれの診療行為に対する歯科衛生士の役割を認識しながら診療補助業務を安全・的確におこなう技術を修得します。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保存修復時の診療補助①歯間分離・歯肉圧排・隔壁調整 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 演習項目について予習をする 【事後】 演習後レポートの作成
第 2 回	保存修復時の診療補助②直接法・間接法 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 演習項目について予習をする 【事後】 演習後レポートの作成
第 3 回	歯科放射線の診療補助 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 歯科放射線について予習をする 【事後】 演習後レポートの作成
第 4 回	口内法・口外法エックス線撮影 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 エックス線の撮影方法について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 5 回	口腔外科・歯周外科の診療補助 (担当者：上原)	【事前】 教本を読むこと 【事後】 演習後レポートの作成
第 6 回	手術・局所麻酔・全身麻酔 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 抜歯器具、歯周外科器具について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 7 回	小児歯科における診療補助 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 小児への対応方法について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 8 回	歯内療法時の診療補助①抜髄法 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 歯髄炎の種類について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 9 回	歯内療法時の診療補助②根管治療・根管充填 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 根管治療・根管充填の手順について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 10 回	補綴時の診療補助 (担当者：澤田)	【事前】 補綴処置の種類について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 11 回	クラウン・ブリッジ・暫間被覆冠 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 暫間被覆冠の作成方法について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 12 回	義歯 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 義歯作成手順について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 13 回	1・2 年合同実習 (A・B) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 身だしなみを整える方法、実習室の使用方 法について説明するための準備を整える 【事後】 自己評価・他者評価 (1 年生) を実施し、 記録する
第 14 回	歯科矯正における診療補助 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 矯正の種類について予習する 【事後】 演習後レポートの作成
第 15 回	項目別評価・まとめ (担当者：科目担当者全員)	【事前】 学んだ知識・技術について復習する 【事後】 不足した点について確認をする

学修の到達目標	
・ 歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解できる ・ 診療項目に応じた器具・器材を準備することができる ・ 患者の安全に配慮した対応方法を理解できる	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科診療補助に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を身につけている。
	不可	臨床の場面に応じた歯科診療の補助についての知識・技術を身につけていない。
② 自ら、心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	可	他者からの助言のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。
③ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		75	15	10	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	75	0	10	0	0	0	85
	② 自己管理能力	0	10	0	0	0	0	10
	③ 省察力	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
提出物	①		演習で修得した知識や技術に対するレポート、自己学習ノートの内容や提出状況
	②	レ	
	③	レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	授業中に行う口頭試問・実技試験
	②		
	③		

履修に必要な知識・技能など	
この授業では、実際の歯科診療に応じた器具・器材の取り扱い方法や患者さんへの対応法を学びます。 臨床歯科Ⅰ・Ⅱ（１年次）・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（２年次）で学ぶ知識および歯科診療補助演習Ⅰで身に付けた技術と関連付けて理解すること。 医療従事者としてふさわしい態度と身だしなみで受講すること。また、欠席しないよう体調管理には十分留意すること。	
教科書・参考書	
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第２版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常Ⅰ 歯科補綴』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科機器』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 小児歯科』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常Ⅱ 歯科矯正』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第２版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 改訂版 イラストと写真でわかる『歯科材料の基礎』 竹澤保政 監著 永末書店 参考書：随時紹介します	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業の概要	対象者の全身状態を的確に把握し、安全で質の高い歯科医療を提供し、チーム医療の一員として専門性を持って業務を実践できるよう、歯科衛生士に必要な知識・技術を修得し、歯科診療補助に応用できる能力を身につける。患者の全身状態や障害を理解したうえでの歯科診療補助のあり方、在宅歯科診療や先端歯科医療など幅広く歯科医療について学習する。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

学修の到達目標	
1. 様々な疾患・病状にある対象者を理解する。	
2. 様々な疾患・病状にある対象者の歯科診療時の歯科衛生士の果たす役割を理解する。	
3. バイタルサイン、体位変換、車椅子の操作、ベッドメイキングを実施することができる。	
4. 先端の歯科医療について学習することで、幅広く歯科医療について興味を持ち新しい情報を吸収できる姿勢を身につける。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。
③ 自己の行動や考えを振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	演習で学んだ内容について、自身の行動や考えを客観的に検証し、反省の上にさらなる望ましい行動につなげることができる。
	優	演習で学んだ内容について、自身の行動や考えを客観的に検証し、反省の上に次につなげることができる。
	良	演習で学んだ内容について、ある程度自身の行動や考えを客観的に検証し、次につなげることができる。
	可	演習で学んだ内容について、他者からの助言のもと、次につなげることができる。
	不可	演習で学んだ内容について、次につなげることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		85	15	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	85	0	0	0	0	0	85
	② 知欲	0	10	0	0	0	0	10
	③ 省察力	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
提出物	①		授業後レポート (10点)
	②	レ	自己学習ノート(予習・復習・配布プリントやレポートの整理)を作成し、定期試験終了後に提出する (5点)
	③	レ	

履修に必要な知識・技能など

幅広い視野を持ち、様々な臨床場面に対応できる歯科衛生士を目標にして、多方面にわたる学習をおこなうので、私たちを取り巻く医療・福祉・保健などの情報に日々関心を持って新聞やテレビを見るように心がけてください。

教科書・参考書

教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 臨床検査』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 小児歯科』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
改訂版 イラストと写真でわかる『歯科材料の基礎』 竹澤保政 監著 永末書店

参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
オーラルリハビリテーション (O23160)	講義	1	15	2	後期	必修	—	澤田美佐緒	5号館3階 研究室
食支援を実践するための基礎を学ぶ								複数担当	
科目担当者	澤田美佐緒、中村美紀								

授業の概要	摂食嚥下機能に関する基本的知識および摂食嚥下障害を生じる全身状態、摂食嚥下障害の症状などについて学びます。また、摂食嚥下機能および口腔機能のアセスメント・評価に基づいた摂食嚥下リハビリテーションを実践するために必要な知識を身に付けます。さらに、食支援における歯科衛生士の役割を理解するとともに、生活背景を考慮した食支援を実践するため、他職種の専門性を知り、多職種で連携して協働するための知識を学びます。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	歯科衛生士と摂食嚥下障害・疾患の理解 (担当者：澤田)	【事前】シラバスに目を通しておく 【事後】摂食嚥下障害の原因についてまとめる
第 2 回	摂食嚥下のメカニズム (担当者：澤田)	【事前】摂食嚥下のメカニズムについて予習する 【事後】摂食嚥下のメカニズムについてまとめる
第 3 回	摂食嚥下機能の発達・小児の摂食嚥下障害 (担当者：中村)	【事前】摂食嚥下機能の発達について予習する 【事後】摂食嚥下機能の発達についてまとめる
第 4 回	摂食嚥下機能評価 (担当者：中村)	【事前】摂食嚥下機能評価方法について予習する 【事後】摂食嚥下機能評価方法についてまとめる
第 5 回	摂食嚥下機能訓練：基礎訓練 (担当者：中村)	【事前】基礎訓練について予習する 【事前】基礎訓練についてまとめる
第 6 回	摂食嚥下機能訓練：摂食訓練 (担当者：中村)	【事前】摂食訓練について予習する 【事後】摂食訓練についてまとめる
第 7 回	口腔機能低下症とリスク管理 (担当者：澤田)	【事前】口腔機能低下症について予習する 【事後】口腔機能低下症・リスク管理についてまとめる
第 8 回	摂食嚥下障害におけるチームアプローチ (担当者：澤田)	【事前】チームアプローチについて予習する 【事後】チームアプローチ、歯科衛生士の役割についてまとめる

学修の到達目標
- 摂食嚥下障害の原因を理解できる - 摂食機能の発達について理解できる - 摂食嚥下機能、評価方法、訓練方法について理解できる - 食支援における歯科衛生士の役割について理解できる

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①食支援を実践するために必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を身につけている。
	不可	オーラルリハビリテーションについての知識・技術を身につけていない。
②学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	80	10	0	0	0	0	90
	② 知欲	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験を実施する
	②	
提出物	① レ	小テストを実施し、学んだ内容を理解しているか評価する 授業後のレポートを課する
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
人体の構造・機能、口腔の構造・機能について復習をしておくこと。 摂食嚥下機能に興味を持ち、日常生活の中の食事場面などで可能な観察をおこなうように心がける。 臨地実習中の授業となるため、規則正しく生活し体調を管理する。
教科書・参考書
教科書：『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版』 社団法人日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
オーラルリハビリテーション演習 (O23170)		演 習	1	30	2	後 期	必 修	—	上原弘美	5 号館 3 階 研究室
全身状態に応じた口腔健康管理を学ぶ									複数担当	
科目担当者	上原弘美、江崎ひろみ、澤田美佐緒、中村美紀									

授業の概要	在宅や施設・病院など、生活・療養環境および全身状態を考慮した口腔健康管理を実践するためのアセスメント・評価に関する理論と技術について演習を通じて学修する。医療・介護・保健・福祉などの分野で有機的な多職種協働を実践するために多職種の臨床実践や活動を学び、演習を通じて多職種協働の中で活動する歯科衛生士の役割を理解したうえで実践できる態度を身に付ける。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	口腔と全身のリスク評価 (担当者：上原・澤田)	【事前】 口腔健康管理を実践するために必要な情報について教本を読む 【事後】 授業内容についてまとめる
第 2 回	摂食嚥下機能に関する所見、摂食嚥下機能評価（検査） (担当者：中村、江崎)	【事前】 摂食嚥下機能および評価方法について学習する 【事後】 実習レポートの作成
第 3 回	全身状態の把握方法、高齢者・麻痺体験とアセスメント (担当者：澤田・江崎・中村)	【事前】 高齢者の生活機能評価について学習する 【事後】 機能評価方法についてまとめ
第 4 回	ベッドサイドにおける口腔のケア、摂食嚥下基礎訓練 (担当者：澤田・江崎・中村)	【事前】 基礎訓練・摂食訓練について学習する 【事後】 実習レポートの作成
第 5 回	栄養管理と食形態の調整・食事介助の実際食事介助の実際 (担当者：澤田・江崎・中村)	【事前】 食事観察における評価項目、栄養評価方法について学習する 【事後】 食事観察ポイント、栄養評価についてまとめ
第 6 回	薬と口腔衛生管理 (担当者：上原)	【事前】 薬と口腔衛生管理の関係について学習する 【事後】 レポートの作成
第 7 回	全身疾患と口腔衛生管理（グループワーク、発表） (担当者：上原)	【事前】 全身疾患と口腔衛生管理の関係について学習する 【事後】 授業内容についてまとめる
第 8 回	口腔外科疾患患者の口腔衛生管理、周術期等口腔機能管理 (担当者：上原)	【事前】 周術期等口腔機能管理について学習する 【事後】 授業内容についてまとめる

学修の到達目標	
1. 全身状況と口腔の関連を理解する。	
2. 全身疾患を持つ対象者の適切な口腔衛生管理がおこなえる。	
3. 摂食嚥下機能および評価法・訓練法を理解する。	
4. 食支援における歯科衛生士の役割を理解する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技術を身に付けている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
② 学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。そして、その経験を踏まえて更なる主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出して達成感を得ることができる。
	良	自発的に学修することができ、そこで自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。
③ 自己の行動や考えを振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	演習で学んだ内容について、自身の行動や考えを客観的に検証し、反省の上にさらなる望ましい行動につなげることができる。
	優	演習で学んだ内容について、自身の行動や考え客観的に検証し、反省の上に次につなげることができる。
	良	演習で学んだ内容について、ある程度自身の行動や考えを客観的に検証し、次につなげることができる。
	可	演習で学んだ内容について、他者からの助言のもと、次につなげることができる。
	不可	演習で学んだ内容について、次につなげることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	20	0	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	80	0	0	0	0	0	80
	② 知欲	0	10	0	0	0	0	10
	③ 省察力	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
提出物	①		授業後・実習後レポート (15点) 自己学習ノート(予習・復習・配布プリントやレポートの整理)を作成し、定期試験終了後に提出する (5点)
	②	レ	
	③	レ	

履修に必要な知識・技能など
1. 臨床歯科医学の知識や2年次の「オーラルリハビリテーション」で学習した内容が基本になるので整理・復習しておくこと。 2. 教本だけでなく、参考書などを使用して自ら学習すること。 3. 学習した内容を振り返り、実習後レポートに簡潔にまとめること。 4. 実習には積極的に参加すること。 5. 臨地実習と並行して開講される科目となるため、体調に留意し、欠席しないように気を付けること。 6. 欠席・遅刻・早退は認めないので、体調を自己管理して臨むこと。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版』公益社団法人日本歯科衛生士会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』 参考書：随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科衛生過程Ⅱ (O23220)	講 義	1	30	2	前 期	必 修	—	中村美紀	5号館3階 研究室他
歯科衛生過程の展開								複数担当	
科目担当者	中村美紀、浅枝麻夢可								

授業の概要	歯科衛生過程Ⅰの応用力および実践力を高める。ここでは事例を用いて具体的に授業を進める。また、歯科衛生アセスメントの情報分類方法として、色々な分類方法があることを理解する。	
アクティブ・ ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション・ 歯科衛生アセスメント理論の理解 (担当者：中村)	【事前】 本科目のシラバスを熟読しておく。 【事後】 授業内容の振り返り、レポートをまとめる。
第 2 回	歯科衛生アセスメント・診断（事例：成人） (担当者：浅枝)	【事前】 成人期に対する歯科保健指導を予習しておく。 【事後】 成人期に対する歯科衛生アセスメント・診断を完成させる。
第 3 回	歯科衛生計画立案・介入（事例：成人） (担当者：浅枝)	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 成人期に対する歯科衛生計画立案・介入を完成させる。
第 4 回	歯科衛生評価・振り返り（事例：成人） (担当者：浅枝)	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 5 回	歯科衛生アセスメント・診断（事例：妊産婦） (担当者：中村)	【事前】 妊産婦期に対する歯科保健指導を予習しておく。 【事後】 妊産婦器に対する歯科衛生アセスメント・診断を完成させる。
第 6 回	歯科衛生計画立案・介入（事例：妊産婦） (担当者：中村)	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 妊産婦期に対する歯科衛生計画立案・介入を完成させる。
第 7 回	歯科衛生評価・振り返り（事例：妊産婦） (担当者：中村)	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 8 回	歯科衛生アセスメント・診断（事例：学齢） (担当者：中村)	【事前】 学齢期に対する歯科保健指導を予習しておく。 【事後】 学齢期に対する歯科衛生アセスメント・診断を完成させる。
第 9 回	歯科衛生計画立案・介入（事例：学齢） (担当者：中村)	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 学齢期に対する歯科衛生計画立案・介入を完成させる。
第 10 回	歯科衛生評価・振り返り（事例：学齢） (担当者：中村)	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 11 回	歯科衛生アセスメント・診断（事例：乳幼児） (担当者：中村)	【事前】 乳幼児期に対する歯科保健指導を予習しておく。 【事後】 乳幼児期に対する歯科衛生アセスメント・診断を完成させる。

第 12 回	歯科衛生計画立案・介入（事例：乳幼児）（担当者：中村）	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 乳幼児期に対する歯科衛生計画立案・介入を完成させる。
第 13 回	歯科衛生評価・振り返り（事例：乳幼児）（担当者：中村）	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 14 回	TEACCH プログラムの活用（事例：障がい児・者） （担当者：中村）	【事前】 障がい児・者に対する歯科保健指導を予習しておく。 【事後】 TEACCH プログラムを完成させる。
第 15 回	TEACCH プログラムの実践（事例：障がい児・者）まとめ （担当者：中村）	【事前】 前回授業の復習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。

学修の到達目標	
1. 歯科衛生過程は歯科衛生業務を行うための考え方であることを理解する。 2. 歯科衛生アセスメントができる。 3. 歯科衛生診断ができる。 4. 歯科衛生計画立案ができる。 5. 歯科衛生介入ができる。 6. 歯科衛生評価ができる。 7. 歯科衛生業務を书面化することができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生過程の各過程および書面化に関する知識・技術が身についている。 (専門力)	秀	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する十分な知識が身についており、それらを活用して実践につなげ、さらに理解を深めることができる。
	優	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する十分な知識が身についており、それらを活用することができる。
	良	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する十分な知識・技術が身についている。
	可	歯科衛生過程の各過程および書面化に関する必要最低限の知識・技術が身についている。
	不可	歯科衛生過程の各過程および書面化について必要最低限の知識・技術が身についていない。
② 口腔健康管理の実践に関し、思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、応用することができる。 (情報力)	秀	自身の適切な判断に基づいて、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析し、応用ができるとともに他者と情報共有ができる。
	優	自身の適切な判断に基づいて、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析し、応用ができる。
	良	他者の助言があれば適切な判断を行い、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析し、応用ができる。
	可	他者の助言があれば、口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析ができる。
	不可	口腔健康管理の実践に必要な情報の収集・整理・分析ができない。
③ 歯科衛生アセスメントや歯科衛生診断に関し、理解し、客観的な根拠と論理的思考に基づき、応用ができる。 (論理的思考力)	秀	歯科衛生アセスメント・診断に関し、十分な客観的根拠を得て、論理的に理解し、応用ができる。
	優	歯科衛生アセスメント・診断に関し、十分な客観的根拠を得て、論理的に理解できる。
	良	歯科衛生アセスメント・診断に関し、ある程度の客観的根拠を得て、論理的に理解できる。
	可	他者の助言があれば、歯科衛生アセスメント・診断に関し、ある程度の客観的根拠を得て、論理的に理解できる。
	不可	歯科衛生アセスメント・診断に関し、ある程度の客観的根拠を得られず、論理的に考えることができない。
④ 歯科衛生計画立案に関し多面的な検討を行い、それらを統合・結論づけし、評価することができる。 (批判的思考力)	秀	歯科衛生計画立案に関し、多面的な検討を行い、それらを統合して結論づけし、評価することができる。
	優	歯科衛生計画立案に関し、多面的な検討を行い、それらを統合して結論することができる。
	良	歯科衛生計画立案に関し、多面的に検討することができる。
	可	歯科衛生計画立案に関し、二～三の側面から検討することができる。
	不可	歯科衛生計画立案に関し、一方向からしか検討することができない。

⑤自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる。 (省察力)	秀	自己の診断に対し適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へと模索し続けることができる。
	優	自己の診断に対し適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を客観的に検証し、望ましい思考・感情・行動を模索することができる。
	良	自己の診断に対し適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を客観的に検証することができる。
	可	他者の助言があれば、診断に対し疑問を持ち、自身の思考・感情・行動を検証することができる。
	不可	自己の診断に対し疑問を持たず、その思考・感情・行動を検証することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	0	0	10	10	100
評価項目	① 専門力	15	0	0	0	5	0	20
	② 情報力	15	0	0	0	5	0	20
	③ 論理的思考力	15	5	0	0	0	0	20
	④ 批判的思考力	15	5	0	0	0	0	20
	⑤ 省察力	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	レポート試験。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
提出物	①		各ライフステージの計画立案から評価までをまとめ、提出する。
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
ポートフォリオ	①	レ	レポート等を掲示した様式で提出する。
	②	レ	
	③		
	④		
	⑤		
その他	①		グループワークでの役割等を評価する。
	②		
	③		
	④		
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
歯科衛生過程Ⅰで使用した教本や資料を使用します。 授業の準備物等について必ず事前に manaba にて確認してください。 体調管理には注意してください。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
コミュニケーション・医療面接 (O23270)	講義	1	15	2	前期	必修	—	永島聡	4号館2階 非常勤講師 控室
人の気持ちなんて本当にわかるのか？								単独担当	
科目担当者	永島聡								

授業の概要	コミュニケーションを円滑に保つには、まず相手を知らなければならないであろうし、そのためには自分自身を知らなければならないだろう。しかしそもそも相手を知る、自分を知るとはどのようなことなのか？この授業においては、心理学的な他者理解および自己理解について、主に来談者中心療法や精神分析の観点から、受講者とともに考えてゆく。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「こころって何なのか？」 私たちは本当にこころを持っているのか？	【事前】 受講への意志を強く持つ 【事後】 内容と感想を 150 字程度にまとめる
第 2 回	「こころの構造はどうなっているのか？」 意識と無意識について。	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる
第 3 回	「自分のこころを表現してみる」 カラーージュ作成を体験する。	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる
第 4 回	「他者のこころを支えるには？」 話をじっくり傾聴することの大切さについて。	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる
第 5 回	「実際に他者の話を傾聴してみる」 グループワークでカウンセリングを疑似体験する。	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる
第 6 回	「受容することと共感すること」 他者を尊重し受け入れることについて。	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる
第 7 回	「受容することと共感すること」 他者を共感するとはどのようなことなのか？	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる
第 8 回	「結局、自己や他者を理解できたのか？そもそも理解できるのか？」授業全体のまとめ。	【事前】 配布物等の熟読 【事後】 内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる

学修の到達目標
自己や他者の存在について「わかったつもりにならない」ことの大切さを理解する。その上で、患者のみならず、医療スタッフとの望ましいコミュニケーションへの継続的興味関心の端緒を開く。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①対人援助職としての専門性 (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。

②多面的な思考 (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
③受容性・共感性 (傾聴力・対話力)	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
④自己表現 (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
⑤グループでの協働 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いですが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	16	0	0	0	4	100
評価項目	① 対人援助職としての専門性	20	4	0	0	0	0	24
	② 多面的な思考	20	4	0	0	0	0	24
	③ 受容性・共感性	20	4	0	0	0	0	24
	④ 自己表現	20	4	0	0	0	0	24
	⑤ グループでの協働	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	論述試験を期末に実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。80点。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
提出物	①	レ	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16点。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
その他	①		グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。4点。
	②		
	③		
	④		
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。
教科書・参考書
教科書：使用しない。 参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
栄養指導法 (O23280)	講義	1	15	2	前期	必修	—	吉田幸恵	5号館3階 研究室
歯科疾患予防の基本は食生活								単独担当	
科目担当者	吉田幸恵、川野亜希								

授業の概要	う蝕や歯周病の発症要因の1つは食生活である。本講義では、歯科疾患と食生活、食生活と健康との関わりを学び、歯科疾患予防および健康増進の観点から望ましい栄養について学習する。さらに、栄養指導時に必要な摂取栄養について評価できる能力を身につけることを目標とする。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	歯科疾患と食生活の関わり 食生活と健康の関わり (担当者：吉田)	【事前】 う蝕と歯周疾患における食生活の関わりを復習する 【事後】 食生活と健康関連のニュースをリサーチする
第2回	食生活（食事）調査の方法 (担当者：吉田・川野)	【事前】 食生活調査の方法について下調べをする 【事後】 食生活調査の方法を確認する
第3回	食生活（食事）調査による栄養摂取状況の把握方法 (担当者：吉田・川野)	【事前】 食生活調査を実施する 【事後】 食生活調査から栄養摂取状況を知る
第4回	栄養摂取状況の評価（エネルギーと栄養素）(担当者：吉田)	【事前】 予め教科書（p.128～132）に目を通す 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読する
第5回	身体に必要な栄養素（日本人の食事摂取基準） (担当者：吉田)	【事前】 予め教科書（p.133～139）に目を通す 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読する
第6回	日本人の栄養摂取の状況（国民健康・栄養調査） (担当者：吉田)	【事前】 予め教科書（p.178～183）に目を通す 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読する
第7回	食生活改善の取り組み（健康日本21、食生活指針など） (担当者：吉田)	【事前】 予め教科書（p.184～194）に目を通す 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読する
第8回	栄養指導の展開（食事計画） (担当者：吉田)	【事前】 予め教科書（p.195～210）に目を通す 【事後】 講義ノート、教科書の該当部を再読する

学修の到達目標
1. 身体および口腔の健康と栄養や食生活の関係を知る。 2. 歯科疾患予防を目的とした栄養指導の必要性を理解する。 3. 栄養指導を実施するための基本的な知識を習得する。 4. 自らの食生活を評価できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①栄養指導を実施するための基本知識を身につけている。 (専門力)	秀	栄養指導を実施するための基本知識を十分高いレベルで身につけている。
	優	栄養指導を実施するための基本知識を高いレベルで身につけている。
	良	栄養指導を実施するための基本知識を身につけている。
	可	栄養指導を実施するための基本知識を身につけているが、十分ではない。
	不可	栄養指導を実施するための基本知識を身につけていない。
②栄養指導を論理的に展開することができる。 (論理的思考力)	秀	対象者に合わせた栄養指導を論理的に展開する能力が十分にある。
	優	対象者に合わせた栄養指導を論理的に展開する能力がある。
	良	栄養指導を論理的に展開する能力がある。
	可	栄養指導を展開できるが論理的には十分でない。
	不可	栄養指導を論理的に展開できない。
③学ぶこと・知ること に楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。さらにその経験を踏まえて、新たな主体的学習へとつながられる。
	優	自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修できることができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	可	他者から促されれば、学修することができ、指摘されて楽しさと喜びを見いだすことができる。
	不可	学修することに楽しさと喜びを覚えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	0	0	0	10	100
評価項目	① 専門力	60	0	0	0	0	0	60
	② 論理的思考力	0	30	0	0	0	0	30
	③ 知欲	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
提出物	①		レポート
	②	レ	
	③		
その他	①		積極的な授業への参加と質問
	②		
	③	レ	

履修に必要な知識・技能など
教科書のⅡ編「歯と口の生化学」を熟読し、理解を深めておいて下さい。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 2 栄養と代謝』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します。必要に応じて資料を配付します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置演習 A II (う蝕) (O23310)	演習	1	30	2	前期	必修	—	破魔幸枝	5号館3階 研究室他
う蝕の予防方法を実践できる能力を 習得する								複数担当	
科目担当者	破魔幸枝、高橋由希子、水村容子								

授業の概要	歯科予防処置演習 A II では、1 年次の「歯科予防処置演習 A I (う蝕)」に続き、う蝕予防方法とその具体的な処置方法に対する理論と方法について演習を通じて学ぶ。また、相互実習では臨床を想定しながらう蝕予防の術式により実践に近い形で授業を展開する。	
アクティブ・ ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 情報収集・口腔内診査・歯面研磨マネキン実習 (担当：科目担当者全員)	【事前】シラバスの確認歯科予防処置論 A、歯科予防処置演習 A I、口腔衛生学授業振り返り 【事後】授業内容の確認
第 2 回	情報収集・口腔内診査・歯面研磨相互実習（前半）（同上）	【事前】前回の授業内容の確認 【事後】演習内容の反省・考察
第 3 回	情報収集・口腔内診査・歯面研磨相互実習（後半）（同上）	【事前】前回の授業内容の確認 【事後】演習内容の反省・考察
第 4 回	う蝕予防処置法 1（フッ化物歯面塗布法）マネキン実習 (同上)	【事前】該当するページの確認 【事後】演習内容の反省・考察
第 5 回	う蝕予防処置法 1（フッ化物歯面塗布法） (同上)	【事前】前回の授業内容の確認 【事後】演習内容の反省・考察
第 6 回	う蝕予防処置法 2（小窩裂溝填塞法） (同上)	【事前】前回の授業内容の確認 【事後】演習内容の反省・考察
第 7 回	う蝕リスクに応じた予防処置方法（歯周病も含む） 情報収集・情報整理 (同上)	【事前】前回の授業内容の確認 【事後】演習内容の反省・考察
第 8 回	う蝕リスクに応じた予防処置方法（歯周病も含む） 発表 (同上)	【事前】前回の授業内容の確認 【事後】授業内容の振り返り

学修の到達目標
1. 患者の情報収集・口腔内診査・歯面研磨の方法を理解し、実践することができる。 2. フッ化物歯面塗布法について説明、器具 / 器材の取り扱い、患者指導ができる。 3. 小窩裂溝填塞法について説明、器具 / 器材の取り扱い、患者指導ができる。 4. リスクに応じたう蝕予防処置方法（歯周病予防含む）を選択し、実践することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①う蝕予防処置の基礎的な知識を身につけている (専門力)	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身につけていない。
②う蝕予防処置の実践に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
③う蝕予防の根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④う蝕予防処置法に対して、自己の思考を振り返り、模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	15	30	0	0	5	100
評価項目	① 専門力	50	5	10	0	0	0	65
	② 情報力	0	5	5	0	0	0	10
	③ 論理的思考力	0	5	10	0	0	0	15
	④ 省察力	0	0	5	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験
	②		
	③		
	④		
提出物	①	レ	レポート課題
	②	レ	
	③	レ	
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	実技評価
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
その他	①		積極的な質問
	②		
	③		
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など
歯科衛生士に必用な知識・技術を習得するための授業である。体調を整え、講義・演習には必ず出席すること。前期の口腔衛生学・歯科予防処置 A の教科書と授業冊子は熟読し、必ず復習してから臨むこと。演習では学習したことを理解してすぐに実践する能力や他の学生との協調性も重要である。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版』 中垣晴男 加藤一夫 石飛國子 高坂利美 編著 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『最新歯科衛生士教本 口腔保健管理』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科予防処置演習 B II (歯周病) (O23320)	演 習	2	60	2	前 期	必 修	—	高橋由希子	5 号館 3 階 研究室
スケーリング・ルートプレーニング 技術の習得								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、吉田幸恵、破魔幸枝、水村容子								

授業の概要	1 年次の歯科予防処置論 B、歯科予防処置演習 B I で習得した知識と予防的歯石除去の基礎技術をもとに、歯周疾患予防と治療に必要な技術を習得する。また、相互演習により歯周疾患の患者への対応法なども習得する。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション キュレットスケーラーの基礎知識マネキン演習 (上顎前歯部) (担当者：高橋・破魔)	【事前】 【事後】 演習内容の復習
第 2 回	キュレットスケーラー操作マネキン演習 (下顎前歯部) (担当者：高橋・破魔)	【事前】 教科書の確認 【事後】 演習内容の復習
第 3 回	キュレットスケーラー操作マネキン演習 (下顎臼歯部) (担当者：高橋・破魔)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 4 回	キュレットスケーラー操作マネキン演習 (上顎臼歯部) (担当者：高橋・破魔)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 5 回	キュレットスケーラー操作実技テスト① (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 6 回	キュレットスケーラー操作実技テスト② (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 7 回	キュレットスケーラー操作相互演習 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 8 回	キュレットスケーラー操作相互演習 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 9 回	歯周治療の流れ・SOAP 記載法 (担当者：高橋)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 10 回	歯周組織診査・業務記録記入法相互演習 (担当者：科目担当者)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 11 回	歯周組織診査・業務記録記入法相互演習 (担当者：科目担当者)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 12 回	パワースケーラー・PMTC 相互演習 (担当者：水村)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 13 回	パワースケーラー・PMTC 相互演習 (担当者：水村)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 14 回	根分岐部の診査法・フローマネキン演習 (担当者：破魔)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習
第 15 回	歯周病と食生活 (担当者：吉田)	【事前】 教科書、演習資料の確認 【事後】 演習内容の復習

学修の到達目標	
1) キュレットスケーラー操作法を習得する。 2) キュレットスケーラーのシャープニングを行うことができる。 3) ルートプレーニングの操作方法を習得する。 4) 多目的超音波スケーラーの目的を理解する。 5) 口腔内診査を行い、健康状態と病的状態を確認することができる。 6) PMTC を実践することができる。 7) 歯面清掃器の操作法を習得する。 8) 根分岐部の診査方法を理解する。 9) 歯周病と全身疾患の関連について理解する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①必要な歯科予防処置の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	必要な歯科予防処置の知識を確実に身につけている。
	優	必要な歯科予防処置の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	必要な歯科予防処置の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	必要な歯科予防処置の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	必要な歯科予防処置の知識を身につけていない。
②歯科予防処置に対し知識・技能を学び、考え、行動する。 (継続力)	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。
③情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる。 (判断力)	秀	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、短時間で正確な状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、演習中得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力等のいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいかわからない。
④自らの学びに対して正しく振り返ることができる。 (省察力)	秀	自身の知識・技能の修得のための考察を確実に行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	優	自身の知識・技能の修得のための考察を十分なレベルで行うことができ、次回の学修につなげることができる。
	良	自身の知識・技能の修得のための考察を一定のレベルで行うことができる。
	可	自身の知識・技能の修得のための考察を最低限のレベルで行うことができる。
	不可	自身の知識・技能の修得のための考察を行うことができない。または振り返りレポートを提出しない。
⑤歯周治療の必要性や知識習得に楽しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができている。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	30	0	15	5	100
評価項目	① 専門力	30	0	10	0	5	0	45
	② 継続力	5	0	5	0	5	5	20
	③ 判断力	0	0	5	0	0	0	5
	④ 省察力	10	0	5	0	5	0	20
	⑤ 知欲	5	0	5	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験を実施する。 試験は教科書と配布資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを確認する。
	②	レ	
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	実技テストを実施する。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
ポートフォリオ	①	レ	各自演習の取り組みを自ら振り返り評価するポートフォリオを、それぞれの学びの成果として蓄積していく。ポートフォリオ評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。 欠落している場合は減点の対象となる。
	②	レ	
	③		
	④	レ	
	⑤		
その他	①		継続的な学習についての評価
	②	レ	
	③		
	④		
	⑤		

履修に必要な知識・技能など
1 年次の歯科予防処置演習 B I での基本的なインスツルメンテーションの習得をした上で学習する内容である。やむ得ない場合を除き以外は原則として欠席を認めない。技術習得は繰り返し行う事で身につくため、自己学習を必須とする。チェアの取扱い、患者対応などは臨床演習直接につながる内容であるため、患者を想定して演習に取り組む。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第 2 版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第 2 版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーション』Jill S. Nield-Gehrig 著 医歯薬出版 『目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅢ デブライドメント』Jill S. Nield-Gehrig 著 医歯薬出版 『目で見えるペリオドンタルインスツルメンテーションⅣ アドバンススキル』Jill S. Nield-Gehrig 著 医歯薬出版 年度別歯科衛生士国家試験問題集 2020 年度版 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
歯科保健指導演習Ⅱ (O23350)		演 習	1	30	2	前 期	必 修	—	中村美紀	5号館3階 研究室他
ライフステージに応じた 歯科保健指導の学修									複数担当	
科目担当者	中村美紀、福田昌代、浅枝麻夢可									

授業の概要	各ライフステージの事例を通し、ライフステージに応じた歯科保健指導の実践力、応用力を培う。また、多様な事例を学修することで、歯科衛生士は全てのライフステージに関わる職業であることの意識化を図る。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☒ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 高齢期の歯科衛生介入演習 (担当者：中村)	【事前】 本科目に関するシラバスを熟読しておく。 高齢期の生活様式について予習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 2 回	成人期の歯科衛生介入演習 (担当者：浅枝)	【事前】 成人期の生活様式について予習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 3 回	妊産婦期の歯科衛生介入演習 (担当者：福田)	【事前】 妊産婦期の生活様式について予習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 4 回	学齢期に対する歯科衛生介入演習 (担当者：中村)	【事前】 学齢期の生活様式について予習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 5 回	乳幼児期の歯科衛生介入演習 (担当者：中村)	【事前】 乳幼児期の生活様式について予習しておく。 【事後】 授業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 6 回	障がい児・者の歯科衛生介入演習 (担当者：中村)	【事前】 障がい児・者の生活様式について予習しておく。 【事後】 事業内容を振り返り、レポートをまとめる。
第 7 回	患者体験・3年生によるアセスメント（合同演習①） 医療面接技法 (担当者：中村、福田、浅枝)	【事前】 1年次に学修した医療面接技法について予習しておく。 【事後】 患者体験記録をレポートとしてまとめる。
第 8 回	患者体験・3年生によるアセスメント（合同演習②） 口腔内状況等情報収集 (担当者：中村、福田、浅枝)	【事前】 3年生への質問事項の準備しておく。 【事後】 患者体験記録をレポートとしてまとめる。

学修の到達目標
・ライフステージの概念を理解する。 ・歯科衛生過程に基づき、ライフステージに応じた歯科保健指導計画の立案方法を学修する。 ・歯科保健指導の実践を理解する。 ・歯科保健指導に必要なコミュニケーション能力を理解する。 ・歯科衛生士は全てのライフステージに関わる職業であることを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた歯科保健指導ができる。 (専門力)	秀	生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた十分な知識と技術を身につけている。また、それらを応用して実践につなげ、さらに理解を深めることができる。
	優	生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた十分な知識と技術を身につけている。また、それらを応用することができる。
	良	生活背景や身体との関係を考慮し、ライフステージに応じた一定の知識と技術を身につけている。
	可	ライフステージに応じたある程度の知識と技術を身につけている。
	不可	ライフステージに応じた知識と技術を身につけていない。
②客観的な根拠と論理的思考に基づいた計画立案および介入ができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠と十分な論理的思考に基づいた計画立案および介入ができる。
	優	客観的な根拠と論理的思考に基づいた計画立案および介入ができる。
	良	客観的な根拠と論理的思考に基づいた計画立案ができる。
	可	客観的な根拠は欠けるが、ある程度論理的思考に基づいた計画立案ができる。
	不可	根拠に基づき、論理的に思考することができない。
③自己の思考や行動に対し、客観的な評価ができる。 (省察力)	秀	常に自己の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができる。また、そこからさらに望ましい思考や行動へ繋げることができる。
	優	自己の思考や行動を客観的に捉え、評価を行うことができる。また、そこから望ましい思考や行動へ繋げようとする努力がみられる。
	良	自己の思考や行動を客観的に捉え、評価を行うことができる。
	可	他者の助言があれば、自己の思考や行動を捉え、評価を行うことができる。
	不可	自己の思考や行動を捉えられず、評価を行うこともできない。
④対象者の話を聴いたうえで、分かりやすい言葉で会話し、対象者の共感を得ることができる。 (傾聴力・対話力)	秀	対象者の話に真摯に耳を傾け、その意向を十分に理解したうえで、対象者に分かりやすい言葉で会話ができ、共感を得ることができる。
	優	対象者の話に耳を傾け、その意向を理解したうえで、対象者に分かりやすい言葉で会話ができる。
	良	対象者の話を聴き、ある程度その意向を理解することができ、対象者と会話ができる。
	可	他者の助言があれば、対象者の話よりその意向を理解することができる。
	不可	対象者の話を聴いてもその意向をくめず、会話が成り立たない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	10	10	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	40	5	0	0	0	0	45
	② 論理的思考力	20	5	0	0	0	0	25
	③ 省察力	20	0	5	0	0	0	25
	④ 傾聴力・対話力	0	0	5	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験（持ち込み不可）。
	②	レ	
	③	レ	
	④		
提出物	①	レ	各ライフステージの計画立案、介入までをまとめ、レポートとして提出する。
	②	レ	
	③		
	④		
成果発表 （口頭・実技）	①		演習内で行う成果発表。発表内容により評価する。
	②		
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など	
1 年次で学修した歯科衛生過程 I、歯科保健指導論 I・II、歯科保健指導演習 I を復習しておいてください。 授業の準備物等について事前に manaba にて確認してください。 体調管理には注意してください。	
教科書・参考書	
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します。	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導演習Ⅲ (O23360)	演 習	1	30	2	後 期	必 修	—	福田昌代	5号館3階 研究室他
個別・集団歯科保健指導技法の学修 他者への歯科保健指導を実践しよう								複数担当	
科目担当者	福田昌代、宮澤絢子、浅枝麻夢可								

授業の概要	集団指導の技法を学修する。様々なライフステージの対象者から集団指導を依頼されたと想定し、対象となる集団の現状把握から課題抽出・分析・指導案の作成・実施・評価という一連の流れを理解し、集団指導の展開プロセスを学修する。本授業で作成した講話原稿は3年次地域口腔保健支援実習Ⅱにおいて実際に使用する。 1年生を患者として個別歯科保健指導を行う。対象者の口腔状況や生活状況の把握をし、歯科衛生過程の考え方にに基づき、問題の明確化、介入方法の決定までを行う。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 個別歯科保健指導と集団歯科保健指導について 担当学年の決定 (担当者：福田)	【事前】 シラバスを読んでおく 【事後】 配布資料の見直し、担当学年の資料収集
第 2 回	指導案の作成① (ストーリーの設定) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 担当学年の資料収集 【事後】 指導案作成の続き
第 3 回	指導案の作成② (時間配分の決定・原稿作成に必要な資料収集) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 担当学年の資料収集 【事後】 指導案作成の完成
第 4 回	講話原稿の作成① (講和原稿の記入) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 講話原稿に向けての資料収集 【事後】 講話原稿作成の続き
第 5 回	講話原稿の作成② (指導媒体の決定) (担当者：科目担当者全員)	【事前】 講話原稿作成の続き 【事後】 講話原稿の完成ならびに指導媒体の決定
第 6 回	1・2年生合同実習① 患者アセスメント①医療面接・情報収集 患者アセスメント②口腔状況等情報収集 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 患者コミュニケーション法の再確認1年生に対して口腔内のアセスメントを行うための事前学習ならびに1年生に対して学習に対するアドバイスとなる内容を整理 【事後】 収集した情報の整理
第 7 回	1・2年生合同実習② 情報の伝達・簡易歯科保健指導 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 収集した情報の整理簡易歯科保健指導の準備学習 【事後】 対象患者への歯科衛生介入に向けての準備
第 8 回	歯科衛生診断・計画立案 (問題の明確化、目標設定、介入方法決定) 振り返り・まとめ (担当者：科目担当者全員)	【事前】 収集した情報の整理対象患者への歯科衛生介入に向けての準備 【事後】 まとめ

学修の到達目標
1. 集団指導の技法を理解する。 2. 健康教育の意義を理解する。 3. 担当学年の指導案の作成ができる。 4. 指導案に沿って講和原稿が作製できる。 5. 個別歯科保健指導実践のための情報収集ができる。 6. 収集した情報を元に問題点を抽出し、個別歯科保健指導のための介入計画が立案できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の基礎的な知識と技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を両方とも確実に身につけている。
	優	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士になるために必要な歯科保健指導の知識と技能を身につけていない。
②担当患者の個別歯科保健指導を行うための情報を収集し、自身の知識・技能を活用して担当患者の課題解決策をデザインすることができる。 (デザイン力)	秀	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し分析した上で、患者の課題を確実に解決できる方法をデザインすることができる。
	優	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し、患者の課題を十分に解決できる方法をデザインすることができる。
	良	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し、患者の課題を一定のレベルで解決できる方法をデザインすることができる。
	可	自身の知識・技能を統合して、担当患者の口腔内を観察し、患者の課題を最低限のレベルで解決できる方法をデザインすることができる。
	不可	担当患者の課題解決策をデザインすることができない。
③集団指導を行うにあたり、担当学年の対象者に歯科保健に関する知識を伝達できる指導案と原稿を作製することができる。 (表現力)	秀	対象学年の歯科保健に関する資料を十分に活用した上で、健康教育を行うための指導案と原稿を素晴らしいアイデアを盛り込んで作成することができる。
	優	対象学年の歯科保健に関する資料を活用し、健康教育を行うための指導案と原稿を対象者の立場に立ち、わかりやすい内容で作成することができる。
	良	対象学年の歯科保健に関する資料を活用し、健康教育を行うための指導案と原稿を必要な内容を盛り込んで作成することができる。
	可	健康教育を行うための指導案と原稿を最低限のレベルで作成することができる。
	不可	健康教育を行うための指導案と原稿を作製することができない。
④指導案・原稿を作製する際に役割分担を明確にし、協力的に取り組むことができる (協調性・協同性)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協同することができる。グループのリーダー的存在として活動し、相手の立場を理解してグループが協調・協同のモチベーションが上がるような役割を担うことができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協同することができる。グループが協調・協同のモチベーションが上がるような役割を担うことができる。
	良	自発的に周囲と協調・協同することができる。
	可	自発的な協調・協同行動は見られないが、他者から促されることで周囲のモチベーションを下げることなく行動することができる。
	不可	協調・協同する意思がなく、周囲のモチベーションを下げ、グループ活動に支障をきたしている。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	20	15	0	0	5	100
評価項目	① 知識の修得	60	0	0	0	0	0	60
	② 患者に対する問題解決デザイン力	0	20	0	0	0	0	20
	③ 指導案・原稿内容	0	0	15	0	0	0	15
	④ グループ活動における協調・協同性	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	授業の成果確認のため筆記定期試験を実施する。試験は教科書と配布資料、演習内容から出題し、知識が修得できているかを確認する。
	②		
	③		
	④		
提出物	①		1年生の担当患者のアセスメントから問題点の抽出、目標の設定、介入計画立案までの行い、そのレポート内容により評価する。
	②	レ	
	③		
	④		
成果発表 (口頭・実技)	①		担当学年の指導案・原稿の成果によって評価する。
	②		
	③	レ	
	④		
その他	①		指導案・原稿を作製する際のグループ間での協調性、協力度を評価する。
	②		
	③		
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など
集団指導については、限られた時間の中で、グループで協同して作業を行い指導案ならびに原稿を作製する必要があるため、時間を有効に使用し、授業時間外の時間も使用して進行すること。対象学年の資料は各自で必ず収集する。 個別指導については、今までの学修してきた知識や技能が十分に活用できる必要があるため、不安事項がある場合は事前に解決しておく。1年次、2年次前期までに学修した内容について復習しておくこと。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 参考書：『臨床実習 Hand book 歯科衛生士教育サブテキスト』クインテッセンス出版 『世界最強の歯科保健指導—診療室から食育まで—上巻』岡崎好秀著 クインテッセンス出版 『新版 家族のための歯と口の健康百科』伊藤公一他著 医歯薬出版 『歯科保健指導関係資料』財団法人口腔保健協会 『生きるちから ライフスキルを育む歯と口の健康教育』川畑徹郎 監修 財団法人ライオン歯科研究所編 東山書房 『すぐできる！楽しくできる！歯・口の健康づくり』安井利一・安室潔・山本広美著 東山書房 『歯科衛生過程 Hand book やさしく学べる・これならわかる 歯科衛生士教育サブテキスト』吉田直美他著 クインテッセンス出版 その他、必要な教科書や文献は随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
総合歯科実習 (O23420)	実 習	3	135	2	後 期	必 修	—	高橋由希子	5 号館 3 階 研究室他
ライフステージに沿った 歯科衛生士の役割を理解する								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、宮澤絢子、吉田幸恵、福田昌代、八木孝和、森谷徳文、山城圭介、上原弘美、澤田美佐緒、破魔幸恵、中村美紀、氏橋貴子、水村容子、浅枝麻夢可、川野亜希								

授業の概要	様々な年齢層との関わりを通して、基礎および専門科目で学習した知識の理解を深め、歯科衛生士の役割を認識する。 幼稚園や保育園での実習を通じて口腔を含む幼児の特性について専門性の高い知識を習得する。	
アクティブ・ ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実習前：学内にて事前指導を行う。 ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 実習施設： ・神戸常盤大学歯科診療所 ・子育て総合支援施設 KIT、子育て広場ときわんモトログ およびノエスタ ・各幼稚園および保育園等 実習後：学内にて振り返りを行う。 ・グループワークを用いた振り返り、考察を行う。 ・振り返り内容を発表する。	【事前】 ・実習目標を設定する。 ・翌日の実習に応じた予習をおこなう。 【事後】 ・実習目標を設定する。 ・翌日の実習に応じた予習をおこなう。

学修の到達目標
1) 神戸常盤大学歯科診療所の役割・機能を知る。 2) 神戸常盤大学関連施設、子育て総合支援施設 KIT、子育て広場ときわんモトログの役割・機能を知る。 3) 各幼稚園および保育園の役割・機能を知る。 4) 子どもの観察や関わりを通して幼児の特性を学習する。 5) 幼児の生活全般を学習する。 6) 幼児の口腔内の特徴を説明できる。 7) 幼児の年齢による歯磨きを説明できる。 8) 幼児の年齢による食事の仕方を学習する。 9) 歯科診療における共同動作の基本ルールを理解し、患者の安全に配慮した臨床手技を習得する。 10) 歯科衛生士の3大業務の内容について理解を深める。 11) 医療安全・感染予防対策について理解する。 12) 医療職種としての歯科衛生士の基本的態度を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を身につけている。
	不可	歯科診療所における歯科衛生士業務についての知識・技術を身につけていない。
② 学修や知識習得に愉しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に愉しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができる。
	優	自発的に学修することができ、学修に愉しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に愉しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により愉しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に愉しさを見出すことができない。
③ 情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	10	0	90	0	100
評価項目	① 専門力	0	0	5	0	20	0	25
	② 知欲	0	0	0	0	25	0	25
	③ 判断力	0	0	0	0	25	0	25
	④ 省察力	0	0	5	0	20	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	1. 実習開始および終了時における自己評価 2. 課題（試問・レポート等）による知識評価 3. 実習・演習による基本技能教育
	②		
	③		
	④	レ	
ポートフォリオ	①	レ	・各自実習の取り組みを自ら振り返り評価する実習日誌を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。 ・ポートフォリオ評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。ワークシートや実習日誌が欠落している場合は減点の対象となる。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など
臨地実習では2年次前期までに学習した全ての知識・技術が必要になるため、学習した内容を復習しておく。 欠席・遅刻・早退は認めないので、体調管理を十分に行う。
教科書・参考書
教科書：特記事項なし 参考書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『新歯科衛生士教本 歯科予防処置』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『新歯科衛生士マニュアル 歯周病学』上田雅俊 他編 クインテッセンス出版 『歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習 HAND BOOK』高阪利美 他著 クインテッセンス出版 『新常用歯科事典』中原 泉 医歯薬出版 『臨床実習 HAND BOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』真木吉信監著 クインテッセンス出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
診療補助実習Ⅰ (O23430)	実習	3	135	2	後期	必修	—	中村美紀	5号館3階 研究室他
歯科診療所における歯科衛生士の 役割を知り、3大業務を学ぶ								複数担当	
科目担当者	中村美紀、氏橋貴子								

授業の概要	歯科診療所における臨地実習を通して、歯科治療の流れ、歯科器材や歯科材料、薬剤についての基礎的知識を確認し、理解を深める。また、歯科診療所における歯科衛生士の役割を知り、歯科衛生士3大業務を総合的に学修する。 なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実習前：学内にて事前指導を実施。 ・実習概要の説明 ・実習の目的と特徴の理解 ・実習目標の設定 実習施設：地域歯科診療施設にて臨地実習を実施。 実習後：学内にて振り返りを実施。 ・グループワークを通し、振り返りを実施 ・振り返りの成果発表 (担当：科目担当者全員)	【事前】 実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習。 【事後】 実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学修した内容をまとめる。 自己学習。

学修の到達目標
1. 地域歯科診療施設の役割・機能を知る。 2. 歯科診療における共同動作の基本ルールを理解する。 3. 歯科チーム医療における歯科衛生士の役割と責任を理解する。 4. 医療安全・感染予防対策について理解を深める。 5. 医療職としての歯科衛生士の基本的態度を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科診療所における歯科衛生士の3大業務遂行に必要な知識と技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術、両方を十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術、両方を十分なレベルで身につけている。
	良	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術、どちらか一方を十分なレベルで身につけている。
	可	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術を、ある程度のレベルで身につけている。
	不可	歯科診療所における歯科衛生士3大業務についての知識と技術を身につけていない。

②臨地実習を行うために必要な一般常識や礼儀が身についている。 (常備力)	秀	一般常識や礼儀等の社会性を、臨地実習の場において十分に発揮させ、様々な場面で他者と深く交流できる。
	優	一般常識や礼儀等の社会性を、臨地実習の場において十分に発揮させることができる。
	良	一般常識や礼儀等の社会性を、臨地実習の場において発揮させることができる。
	可	ある程度の一般常識や礼儀等の社会性は身についているが、臨地実習等の指導者の指示に対応することができない。
	不可	一般常識や礼儀等の社会性が身についていない。
③自ら、心身の健康を適切に管理することができる。 (自己管理能力)	秀	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	可	他者からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。
④自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に探索することができる。 (省察力)	秀	日頃から修得した知識や技術を客観的に検証しており、さらなる望ましいものへとつなげ続けられる復習と考察ができる。
	優	日頃から修得した知識や技術を検証し、次につながる復習と考察ができる。
	良	問題提起があると自発的に修得した知識や技術を検証し、次につながる復習と考察ができる。
	可	他者の助言があれば修得した知識や技術を検証し、復習と考察ができる。
	不可	修得した知識や技術を検証することができず、復習と考察もできない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	20	0	0	30	50	100
評価項目	① 専門力	0	20	0	0	0	0	20
	② 常備力	0	0	0	0	0	25	25
	③ 自己管理能力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 省察力	0	0	0	0	30	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	レ	実習前レポート、実習後レポートをそれぞれ提出する。
	②		
	③		
	④		
ポートフォリオ	①		実習に関わる日誌、自己学習等を掲示する様式で提出する。
	②		
	③		
	④	レ	
その他	①		実習に対する態度（積極性、リーダー性）、自己管理能力等を評価する。
	②	レ	
	③	レ	
	④		

履修に必要な知識・技能など
2 年前期までに修得した知識や技術が必要となるため、復習をしておいてください。 体調管理に注意してください。
教科書・参考書
教科書：『臨地実習 HAND BOOK（歯科衛生士教育サブテキスト）』眞木吉信 監著 クインテッセンス出版 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔保健衛生学実習 I (O23450)	実習	3	135	2	後期	必修	—	破魔幸枝	5号館3階 研究室他
小児歯科・矯正歯科における 歯科衛生士の役割を学ぶ								複数担当	
科目担当者	破魔幸枝、水村容子								

授業の概要	小児歯科および矯正歯科診療所における臨地実習を通して、それぞれの専門医による歯科治療の特性と歯科衛生士の役割を学修する。また、保護者を含めた対象者への対応方法について実践的に体験することで応用力を身に付ける。 なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	【実習前】学内にて事前指導を実施 ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 【実習施設】以下の施設にて臨地実習を実施 ・小児歯科 ・矯正歯科 【実習後】学内にて振り返りを実施 ・グループワークを活用した振り返り ・振り返りを考察して発表	【事前】毎日、実習目標を設定し、実習に応じた予習を行う。 【事後】毎日、実習目標の達成状況を振り返る。実習日誌に学んだ内容をまとめ、自己学習を行う。

学修の到達目標
1. 小児歯科・矯正歯科の役割・機能を知る。 2. 小児歯科・矯正歯科における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 小児期・矯正中の口腔保健管理を学ぶ。 4. 小児歯科・矯正歯科における対象者や保護者への対応方法を修得する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各専門職の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を身につけている。
	不可	小児歯科・矯正歯科の専門領域に関する知識・技術を身につけていない。

②医療人として必要な 一般常識や礼儀が身についている (常識力)	秀	一般常識や礼儀が身についており、あらゆる場面で連絡・報告・相談して、積極的に的確な行動ができる。
	優	一般常識や礼儀が身についており、多くの場面で連絡・報告・相談して、積極的に指示通りの行動ができる。
	良	一般常識や礼儀が身についており、連絡・報告・相談することはできるが、指示通りの行動ができる。
	可	一般常識や礼儀は理解できているが、連絡・報告・相談などの行動ができない。
	不可	一般常識や礼儀は理解できていず、指示通りの行動もとれない。
③心身の自己管理ができる (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚を持ち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚を持ち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。
④自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	20	0	0	30	50	100
評価項目	① 専門力	0	10	0	0	15	0	25
	② 常識力	0	0	0	0	0	25	25
	③ 自己管理能力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 省察力	0	10	0	0	15	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
提出物	①	レ	実習前・実習後レポート、課題レポート
	②		
	③		
	④	レ	
ポートフォリオ	①	レ	臨地実習日誌（実習記録）
	②		
	③		
	④	レ	
その他	①		実習姿勢（積極性、連絡・報告・相談）、自己管理（心身の管理、忘れ物）など
	②	レ	
	③	レ	
	④		

履修に必要な知識・技能など
臨地実習では、2 年次前期までに学んだすべての知識・技術が必要になる。学んだ内容を整理し、復習して自分のものにしておくこと。そのためには、体調管理に留意し、探究心・好奇心をもって主体的に学ぶこと。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 小児歯科』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科矯正』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版』 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『新常用歯科辞典』 中原泉 医歯薬出版 『臨床実習 HANDBOOK（歯科衛生士教育サブテキスト）』 眞木吉信 監著 クインテッセンス出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域との協働B (ZO2050)	演 習	1	30	2 ～ 3	通 年	選 択	—	澁谷雪子	2号館3階 研究室他
地域に飛びだし、学ぼう！								複数担当	
科目担当者	澁谷雪子、京極重智、伊藤彰、中村美紀								

授業の概要	学生が主体となり、地域（主に小豆島）活性化のために、地域の方々と協力して活動を行う。その活動を通し学生同士で助け合い、支えあうチームビルディングの力を育成する。また地域の方々と協力し、一定の目的に向けて何かを成し遂げる社会性と実践力を養う。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 (有) ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	グループワーク①：目標を考える 合宿（集団生活）において必要なことを考える。全体、個の目標を考える。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 合宿において必要なこと、目標を考える。(30分) 【事後】 意見をまとめ、資料とする。(30分)
第 2 回	グループワーク②：リーダーとしての行動について考える 合宿（集団生活）においてどのように行動すべきかを考える。地域、他者への対応について考える。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 リーダーとしての行動、他者への対応について考える。(30分) 【事後】 意見をまとめ、資料とする。(30分)
第 3 回	グループワーク③：計画（1） 参加者募集に向け計画を立て、資料を作成する。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 合宿の内容、目的について確認をする。(30分) 【事後】 参加者募集の資料を作成する。(30分)
第 4 回	グループワーク④：計画（2） 詳細な計画を立てる。合宿中の各場面での行動、判断について話しあう。班分け、しおり作成を進める。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 集団生活、合宿における注意事項について考える。(30分) 【事後】 意見をまとめ、資料とする。(30分)
第 5 回	グループワーク⑤：計画（3） 合宿に向けての準備、最終確認をする。合宿オリエンテーションの内容、進め方について考える。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 合宿で必要な事項を再度考える。(30分) 【事後】 合宿のしおりを作成する。(30分)
第 6 回	合宿① 日程、活動、役割の最終確認 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各自で合宿に向けて最終確認をする。(30分) 【事後】 変更事項等の確認 (30分)
第 7 回	合宿② 施設実習に向けての準備 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各自、実習に向けて必要な事項を考える。(30分) 【事後】 各自、最終確認をする。(30分)
第 8 回	合宿③ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各施設、専門の職業について調べる。(30分) 【事後】 実習記録を作成する。(30分)
第 9 回	合宿④ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各施設、専門の職業について調べる。(30分) 【事後】 実習記録を作成する。(30分)
第 10 回	合宿⑤ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各施設、専門の職業について調べる。(30分) 【事後】 実習記録を作成する。(30分)
第 11 回	合宿⑥ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各施設、専門の職業について調べる。(30分) 【事後】 実習記録を作成する。(30分)

第 12 回	合宿⑦ 地域貢献活動 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各自、地域貢献活動での役割について考える。(30 分) 【事後】 活動記録を作成する。(30 分)
第 13 回	合宿⑧ 地域貢献活動 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 各自、地域貢献活動での役割について考える。(30 分) 【事後】 活動記録を作成する。(30 分)
第 14 回	振り返り、発表会準備 合宿の目標設定、その目標の到達度、活動報告についてまとめる。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 合宿の計画、活動報告をまとめる。(30 分) 【事後】 発表会の資料を作成する。(30 分)
第 15 回	発表会 活動報告も含め、この授業で学んだこと、その学びをどのように役立てていくかについて発表する。 (担当者：科目担当者全員)	【事前】 発表会の準備をする。(30 分) 【事後】 まとめを行う。他者評価を行う。(30 分)

学修の到達目標	
履修者は地域の方々との関わり、共同生活において、協力して活動するために必要な事項を下記の評価項目も含めて、自ら考え、まとめ、周囲に伝えることにより、社会性について自発的に考える。また考えた事項を合宿で実践し、社会性を身につける。履修期間をとおして考え、身につけた事項をどのように各専門分野に役立てていくかを考える。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 自分の考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の考え、想いを論理的にまとめ、他者へ伝えることができる
	優	自分の考え、想いを表現でき、他者へ伝えることができる
	良	自分の考え、想いを表現することができる
	可	自分の想いを表現することができる
	不可	自分の考えを表現することができない
② 必要なことを考え、判断し、行動することができる (判断力・実行力)	秀	必要なことを自ら考え、判断し、他者とともに行動することができる
	優	必要なことを自ら考え、判断し、行動することができる
	良	必要なことを他者の協力のもと考え、判断し、行動することができる
	可	必要なことを他者の協力のもと考えることができる。
	不可	必要なことを考えることができない。
③ 自分のやるべきことを考え、取り組むことができる (責任感)	秀	自分のやるべきことを自ら考え、他者とともに取り組むことができる
	優	自分のやるべきことを自ら考え、取り組むことができる
	良	自分のやるべきことを他者の協力のもと考え、取り組むことができる
	可	自分のやるべきことを他者の協力のもと考えることができる
	不可	自分のやるべきことを考えることができない。
④ 対話の場面において、他者の考え・想いを聴き、他者の気持ち考えた行動・対話することができる (傾聴力・対話力)	秀	他者の考え・想いを聴き、他者の立場となり考え、他者の気持ちを考えた行動・対話することができる
	優	他者の考え・想を聴き、他者の立場となり考え、行動・対話することができる
	良	他者の考え・想を聴き、他者の立場となり考えることができる
	可	他者の考え・想を聴きくことができる
	不可	他者の考え・想を聴きくことができない
⑤ 全ての場面において、他者の立場となり考え、協力し目標達成に向けて行動することができる (協調性・協働性)	秀	他者の立場となり考え、積極的に協力し目標達成に向けて行動することができる
	優	他者の立場となり考え、協力し目標達成に向けて行動することができる
	良	積極的に協力し目標達成に向けて行動することができる
	可	協力し目標達成に向けて行動することができる
	不可	目標達成に向けて行動することができない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		15	10	50	0	0	25	100
評価項目	① 表現力	10	5	10	0	0	5	30
	② 判断力・実行力	0	0	10	0	0	5	15
	③ 責任感	5	5	10	0	0	5	25
	④ 傾聴力・対話力	0	0	10	0	0	5	15
	⑤ 協調性・協働力	0	0	10	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	レポート試験
	②		
	③	レ	
	④		
	⑤		
提出物	①	レ	第1～13回（準備,合宿）：manabaにおいて準備、合宿に用いる資料、まとめの資料を提出 第7～8回（振り返り）：報告書、発表資料提出
	②		
	③	レ	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	合宿オリエンテーション、発表会
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
その他	①	レ	他者から評価、自分自身の評価 毎回、manabaにおいてアンケート（自分自身の評価、他者からの評価）を実施する。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
地域の方々、先輩、同級生、教職員との関わりから、何かを学ぼうとする姿勢を持って履修すること。 再試験は実施しない。
教科書・参考書
教科書：定めず、必要時は資料配布 参考書：定めず、必要時は資料配布

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
プレゼンテーション技法 (O21000)	演 習	1	30	3	前 期	必 修	—	室崎友輔	7 号館 4 階 研究室他
人を動かすプレゼンテーション								複数担当	
科目担当者	室崎友輔、谷口英明								

授業の概要	臨床において医療従事者のコミュニケーション能力が重要であることは誰もが疑う余地のないことであるが、情報を伝え・公開する能力であるプレゼンテーション能力が、そのコミュニケーション能力の重要な一部であることを理解している人はまだまだ多くない。患者や医療従事者にとって有用な情報があっても、情報を伝えるための技能であるプレゼンテーション技法が身につけていないためにその情報が適切に伝えられなければ、その情報は存在しないのと同じである。そこで、本科目では、プレゼンテーション能力をコミュニケーション能力の一部と位置づけ、人を動かすプレゼンテーションを実践するための基礎的技法・能力の修得を目指す。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	自己表現の方法論①：概要と意義 自己紹介 (各自 1 分) 自己紹介は評価の対象ではありません、のびのび自由に (担当者：谷口)	【事前】 1 分程度の自己紹介を準備しておく 【事後】 発表内容のリフレクション
第 2 回	自己表現の方法論② 信頼される話し方技術・あがり症を修正 (担当者：谷口)	【事前】 前回の授業内容を復習 【事後】 授業内容のリフレクションをマナバ上に提出
第 3 回	自己表現の方法論③ 自己 PR (各自 1 分) (担当者：谷口)	【事前】 1 分程度の自己 PR を準備しておく 【事後】 発表内容のリフレクション
第 4 回	自己表現の方法論④ 傾聴力アップの方法・聴く力は質問力を活用する (担当者：谷口)	【事前】 前回の授業内容を復習 【事後】 授業内容のリフレクションをマナバ上に提出
第 5 回	自己表現の方法論⑤ 模擬面接面接対策とまとめ (担当者：谷口)	【事前】 採用面接に臨むつもりで準備しておく 【事後】 第 1 回から第 5 回までのまとめをマナバ上に提出
第 6 回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 1- (1) スライドのデザイン 1 (フォントとカラー、マスタースライド) (担当者：室崎)	【事前】 前回の発表スライドの見直し 【事後】 グループでの発表準備
第 7 回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 1- (2) スライドのデザイン 2 (伝わるデザイン) (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 グループでの発表準備
第 8 回	中間プレゼンテーションとクリティーク (教員による) スライドの構成 (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 発表内容のリフレクション
第 9 回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 1- (3) 予行演習・修正・完成 (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 グループでの発表準備
第 10 回	プレゼンテーションとクリティーク (ピア&教員による) (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 発表内容のリフレクション
第 11 回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 2- (1) (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 グループでの発表準備
第 12 回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 2- (2) (担当者：室崎)	【事前】 グループでの発表準備 【事後】 グループでの発表準備

第 13 回	プレゼンテーションの実施 (担当者：室崎)	【事前】グループでの発表準備 【事後】発表内容のリフレクション
第 14 回	プレゼンテーションに向けたグループワーク 3 (担当者：室崎)	【事前】グループでの発表準備 【事後】グループでの発表準備
第 15 回	プレゼンテーションの実施 (担当者：室崎)	【事前】グループでの発表準備 【事後】発表内容のリフレクション

学修の到達目標	
・プレゼンテーションの要点について述べることができる。 ・人を動かすプレゼンテーションを行うことができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①他者に対して自らの考えを表現することができる。 (表現力)	秀	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められ、その内容が優れており、他者からもそのように評価されている。
	優	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められ、その内容が優れている。
	良	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができ、実際にそのための工夫が認められる。
	可	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく伝える努力の過程を見て取ることができる。
	不可	自ら取り組んだ成果を、他者に向けてわかりやすく興味深く伝える努力の過程が見られない。
②他者と1つの課題について協力して取り組むことができる (協調性・協働性)	秀	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができ、他者から評価されている。
	優	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができ、グループのために有益な意見を出すことができる。
	良	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行するのみならず、他者と建設的に議論を行うことができる。
	可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができる。
	不可	他者と共に課題に取り組む中で、自らに与えられた役割を遂行することができない。
③社会の一員として責任をもって物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでおり、他者からもそのように評価されている。
	優	自らの行動のすべてに対して責任を負う腹づもりで物事に臨んでいる。
	良	報告・連絡・相談を能動的に行うことができる。
	可	言われれば、報告・連絡・相談ができる。
	不可	報告・連絡・相談ができない、あるいは責任感が全くない。
④自らの学びに対して謙虚にリフレクト(省察)することができる。 (省察力)	秀	自己の課題が具体的に明示され、なおかつ実効性を伴った次への行動指針がみられる。
	優	自己の課題と次への行動指針がみられる。
	良	自己の課題はみられるが、次への行動指針が具体的かつ明瞭ではない。
	可	自己の課題はみられるが、抽象レベルに留まっている。
	不可	自己の課題と次への行動指針が明確にされていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		40	0	60	0	0	0	100
評価項目	① 他者に対する表現	0	0	40	0	0	0	40
	② 他者との協働	0	0	10	0	0	0	10
	③ 責任をもって物事に臨む	0	0	5	0	0	0	5
	④ リフレクトする力	40	0	5	0	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	最終レポートにて評価する。
	②	
	③	
	④ レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	グループとしての3つの課題のプレゼンテーション内容によって評価する。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	

履修に必要な知識・技能など
・主体的・能動的な学修への姿勢・態度 ・「教員が何を教えてくれるか」ではなく「自らが何を学ぶか・学びたいか」が極めて重要である
教科書・参考書
教科書：なし 参考書：適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
生涯発達論 (O21130)	講義	2	30	3	後期	選択	—	柳原利佳子	7号館5階 研究室
ライフプランを考えてみよう								単独担当	
科目担当者	柳原利佳子								

授業の概要	人間の発達を全生涯にわたってなされる変化・変容の視点から検討する。人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。個体の生物学的要因としての発達の变化のイメージを描くだけではなく、社会・文化的要因として家族関係、進路選択など、さまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。	
アクティブ・ラーニングの要素	☒ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	生涯発達とは	【事前】 シラバス内容を熟読する、生涯発達について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 2 回	第1次性徴	【事前】 性の分化について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 3 回	シエマの獲得と循環反応	【事前】 ピアジェの発達理論について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 4 回	思考の発達	【事前】 思考の発達について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 5 回	感情の発達	【事前】 感情の発達について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 6 回	ハヴィガーストの発達課題 (小テスト1:第1回～第5回まで)	【事前】 第1回～第5回までを復習し小テスト対策をする、ハヴィガーストの発達課題について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 7 回	第2次性徴	【事前】 思春期からの身体変化について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 8 回	性役割観と自己意識	【事前】 性役割期待について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 9 回	世代を超えた発達の影響	【事前】 世代を超えた発達の影響について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 10 回	人格の発達 (小テスト2:第6回～第9回まで)	【事前】 第6回～第9回までを復習し小テスト対策をする、ユングのパーソナリティ理論について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 11 回	自我同一性の形成とモラトリアム	【事前】 エリクソンの生涯発達の理論について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 12 回	自我同一性地位	【事前】 自我同一性地位について調べる 【事後】 学びの確認をする

第 13 回	配偶者選択	【事前】 配偶者選択の制度と現代的傾向について調べる 【事後】 学びの確認をする
第 14 回	結婚と子どもをもつという選択	【事前】 結婚の長所短所や子どもをもつためにどのような準備が必要か調べる 【事後】 学びの確認をする
第 15 回	人口減社会におけるライフスタイルの選択（小テスト 3：第 10 回～第 14 回まで）	【事前】 第 10 回～第 14 回までを復習し小テスト対策をする、人口減社会の問題点について調べる 【事後】 学びの確認、期末試験対策をする

学修の到達目標	
人間の発達を乳幼児期にみられる著しい心身の発達だけではなく、死に至るまで常に変化・変容し続ける存在であるという視点でとらえることができる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①人間発達についての基本的な必要な知識を身につけている。 (専門力)	秀	人間発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめるだけではなく、将来設計の展望にも活用できる。
	優	人間発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を自らの過去の経験に当てはめて活用できる。
	良	人間発達について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	人間発達について基本的な知識を身につけている。
	不可	人間発達についての知識を身につけていない。
②学ぶこと・知ること に、楽しさと喜びを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら楽しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて楽しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ること、楽しさと喜びを覚えることができない。
③心理検査の結果に基づき、論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
④自らの辿ってきた道筋を振り返り、今後の人生に活かすことができる。 (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		22	48	30	0	0	0	100
評価項目	① 専門力	0	28	0	0	0	0	28
	② 知欲	0	0	30	0	0	0	30
	③ 論理的思考力	0	12	0	0	0	0	12
	④ 省察力	22	8	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レポート試験において、論理的に分析し省察できていたかどうかを評価する。
	②	
	③	
	④ レ	
提出物	① レ	小テストにおいて知識が習得できていたかどうか、また、授業内あるいは授業外の小レポートに対して、主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。
	②	
	③ レ	
	④ レ	
成果発表 (口頭・実技)	①	授業内に行う復習チェックや授業内において発言するなど積極的に授業参加していたかどうかを評価する。
	② レ	
	③	
	④	

履修に必要な知識・技能など
人間の生涯発達に関して、興味、関心を持ち、ニュース等の情報に積極的に注目する意識をもつこと。また、毎回復習チェックもしくは小テストを実施するので、授業の中で出てきた専門用語など、授業後にその都度まとめて整理しておくこと。
教科書・参考書
教科書：使用しません。毎回プリントを配布します。 参考書：適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
遺伝子と再生医療 (O21150)	講義	1	15	3	後期	選択必修	—	坂本秀生	7号館2階 研究室
再生医療のために遺伝子を知ろう								単独担当	
科目担当者	坂本秀生								

授業の概要	失った永久歯を補う為に義歯を用いているが、遺伝子の仕組みを理解し再生医療へと応用すれば、永久歯を再生する事も理論的には可能で理想的な治療法とも言える。 本講義では遺伝子の基本的な働き、再生医療実現への基本的な知識と理論を会得し、歯科医療にどのように再生医療を活かすことが可能か理解する。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☒ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	細胞の基礎	【事前】 細胞について 【事後】 細胞の構造
第 2 回	遺伝子からタンパク質	【事前】 アミノ酸について 【事後】 遺伝子とアミノ酸の関係
第 3 回	タンパク質の働き	【事前】 酵素について 【事後】 タンパク質の立体構造
第 4 回	生体内での情報伝達	【事前】 細胞内の構造について 【事後】 情報伝達物質と受容体
第 5 回	DNA の姿	【事前】 核酸について 【事後】 DNA の構成
第 6 回	遺伝情報の伝達	【事前】 遺伝子発現とは 【事後】 転写と翻訳
第 7 回	遺伝子発現の調節機能	【事前】 セントラルドグマについて 【事後】 プロモーターとは
第 8 回	遺伝子と疾患	【事前】 遺伝子と医療について 【事後】 疾患感受性遺伝子と疾患

学修の到達目標
再生医療の基礎となる分子生物学を理解し、遺伝子の作用を学修する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①遺伝子を理解できる (探求力)	秀	遺伝子と DNA とタンパク質を説明できる
	優	遺伝子と DNA を説明できる
	良	遺伝子を遺伝が理解できる
	可	遺伝子を遺伝がわかる
	不可	遺伝子を理解出来ない
②再生医療を理解できる (知欲)	秀	歯科領域の再生医療を説明できる
	優	遺伝子と再生医療を説明できる
	良	遺伝子を再生医療が理解できる
	可	再生と再生医療の違いがわかる
	不可	再生を理解出来ない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		100	0	0	0	0	0	100
評価項目	① 遺伝子の理解	50	0	0	0	0	0	50
	② 再生医療の理解	50	0	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	レポート試験を実施
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
図表は教科書中心に使用するので、板書を書き取るより内容を理解しながら履修すると効果的。
教科書・参考書
教科書：好きになる分子生物学 萩原清文 著 講談社サイエンティフィック 参考書：分子生物学イラストレイテッド 田村隆明 著 羊土社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科医療と法律・制度 (O22120)	講義	1	15	3	後期	必修	—	山城圭介	5号館3階 研究室他
歯科衛生士が知っておくべき 法律・制度								複数担当	
科目担当者	山城圭介、吉田幸恵、高橋千鶴								

授業の概要	保健・医療・福祉の事業・制度は法律・法令に基づいて実現される。歯科衛生士や他の医療従事者の業務や役割も法律によって規制され、また資格を持つ者のみが特に従事できる業務も法律によって定められている。それら業務や役割は時代や社会の要請によって変化してきた。歯科医療をはじめとする保健・医療制度の歴史と現状を理解し、歯科医療の専門家として社会資源を活用できる幅広い知識、能力を身につける。	
アクティブ・ ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☒ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	医療と社会保障制度の沿革と現状 (担当者：山城)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 2 回	歯科衛生士法 (担当者：吉田)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 3 回	医療関係者に関する法律など (担当者：山城)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 4 回	医療の仕組みと動向 (担当者：山城)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 5 回	保健・医療・福祉の連携 (担当者：高橋)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 6 回	介護・介護予防と口腔保険 (担当者：高橋)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 7 回	社会福祉の仕組みと動向 (担当者：山城)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 8 回	まとめ (担当者：山城)	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習

学修の到達目標
歯科衛生士法やその他の関連法規や制度について学び、法的根拠に裏付けられた歯科衛生士業務の重要性を認識する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①医療・福祉に関する情報を収集・整理・分析し活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析・活用できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		70	0	0	0	0	30	100
評価項目	① 情報力	70	0	0	0	0	30	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
その他	① レ	受講態度・積極的な質問、グループディスカッションを行うことがある。

履修に必要な知識・技能など
学生からの意見を求めることもあるので、積極的な授業参加を希望する。新聞、ウェブサイトをはじめとする報道や雑誌・書籍を通して社会・経済と医療・歯科医療や保健・福祉に関わる情報に関心を持つことが望まれる。
教科書・参考書
教科書：「最新歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度 第3版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 「最新歯科衛生士教本 保健生態学 第3版」全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
災害援助と救急医療 (O22150)		講義	1	15	3	前期	必修	—	高橋由希子	5号館3階 研究室他
大規模災害時の保健医療対策									複数担当	
科目担当者	高橋由希子、室崎友輔、宮田英和、金千秋									

授業の概要	災害時の健康被害の概要と支援の必要性を理解する。命の大切さを知り、地域貢献をも念頭に置いた高い倫理観を養う。さらに、災害だけでなく一般の歯科臨床における救急時の対応などにも広く応用できる知識を身につける。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	災害時の健康被害の概要 (担当者：高橋)	【事前】 シラバスの確認 【事後】 講義内容の復習
第 2 回	災害サイクルと医療支援 (担当者：高橋)	【事前】 配布資料の確認 【事後】 講義内容の復習
第 3 回	災害とメディア① (担当者：宮田)	【事前】 災害時のメディアの役割を予習 【事後】 講義内容の復習
第 4 回	災害とメディア② (担当者：宮田)	【事前】 災害時のメディアの役割を予習 【事後】 講義内容の復習
第 5 回	被災外国人と多文化 (担当者：金)	【事前】 被災外国人について予習 【事後】 講義内容の復習
第 6 回	災害時における女性の視点からの支援活動 (担当者：金)	【事前】 災害時の支援活動について予習 【事後】 講義内容の復習
第 7 回	防災啓発手法について (担当者：室崎)	【事前】 防災について予習 【事後】 講義内容の復習
第 8 回	災害時における歯科医療人の役割 (担当者：高橋)	【事前】 配布資料の確認 【事後】 講義内容の復習

学修の到達目標
1. 災害サイクルを説明できる。 2. 災害時の健康被害の概要を説明できる。 3. 災害時の医療支援を説明できる。 4. 歯科衛生士として被災者の心情を考えた支援のあり方を時系列で説明できる。 5. 歯科臨床において救急処置を必要とする場面と予防法について説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①災害時の歯科保健および歯科衛生の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を確実に身につけている。
	優	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を身につけていない。
②失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる (実行力)	秀	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいかわからない。
③社会の一員としての責任を持って物事に臨むことができる (責任感)	秀	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。使命感を持ち、見返りを求めることはない。メリットは結果的に副産物として生ずるものであるとわかっている。
	優	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。
	良	その場から問われていることに応えることができ、その場に適した態度を取る事ができる。
	可	その場から何かを問われていることはわかっている、何かをしたいという意思はある。
	不可	何かを獲得しメリットを享受したいと求めるが、自分がその場に何ができることはないだろう、という発想はない。
④誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる (貢献力)	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。また自分の貢献力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者から支持されれば、周囲に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。
⑤物事を多角的・批判的に捉え、考えることができる (批判的思考力)	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	25	0	0	0	25	100
評価項目	① 専門力	20	10	0	0	0	5	35
	② 実行力	5	0	0	0	0	5	10
	③ 責任感	5	5	0	0	0	5	15
	④ 貢献力	5	0	0	0	0	5	10
	⑤ 批判的思考力	15	10	0	0	0	5	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	筆記試験を実施する。 試験は配布資料から出題し、講義過程において知識が修得できているかを確認する。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
提出物	①	レ	必要に応じて指示された課題に対しレポートを提出する。
	②		
	③	レ	
	④		
	⑤	レ	
その他	①	レ	主体的・能動的に取り組んだ事については、加点の評価対象となる。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
災害時の保健医療対策の基礎および概要を学習するため、予習として事前に配布する資料および教科書を読んで講義に臨む。
教科書・参考書
教科書：『保健生態学第二版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 参考書：『口腔外科学・歯科麻酔学』池邊哲郎他編集 クインテッセンス出版 『災害時の歯科保健医療対策』日本災害時公衆衛生歯科研究会 編集 一世出版 『災害時の公衆衛生－私達にできること』國井修編集 南山堂 『歯科における災害対策－防災と支援』中久木康一 編集 砂書房 『シミュレーションで学ぶ避難所の立ち上げから管理運営 HAPPY エマルゴトレイン手法を用いて』山崎達枝監修 荘道社 『災害歯科医学』槻木恵一編 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
医療情報システム学 (O22160)	講義	1	15	3	後期	選択必修	—	玉川裕夫	4号館2階 非常勤講師 控室
病院と地域を支える 情報システムを知る								単独担当	
科目担当者	玉川裕夫								

授業の概要	医療情報システム学では、医療情報の持つ特性の理解からはじめ、病院情報システムの構成要素を知ることや、地域医療連携や遠隔医療で必要となる標準化の意義を学ぶ。情報処理技術が医療現場でどのように応用されているかについて、身近に感じられるテーマをとりあげ、将来、電子化された病院や診療所で活躍する立場を視野にいて、自ら考えることを重視する。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	医療情報の特性と医療情報システムの基礎	【事前】 シラバスに目を通しておく 【事後】 システムの実例をあげる
第 2 回	病院情報システム I (電子カルテとオーダエントリシステム)	【事前】 第 1 回目配布資料を見直しておく 【事後】 オーダエントリシステムの基本構成を復習する
第 3 回	病院情報システム II (医事会計システム、医用画像システム、部門システム)	【事前】 家族の医療費負担について聞いてみる 【事後】 社会保障の仕組みについて復習する
第 4 回	医療情報の標準化	【事前】 医療以外での標準化の例を考えてみる 【事後】 医療の標準化の具体例を知る
第 5 回	広域の医療情報システム	【事前】 病院の役割分担について考えてみる 【事後】 地域医療ネットワークの例を調べる
第 6 回	医療情報の一次利用と二次利用	【事前】 職業として守秘義務が必要な理由を考える 【事後】 蓄積された医療情報の利活用を考える
第 7 回	実習 1 (医療情報を扱うものが身につけておくべきマナーとルール)	【事前】 医療情報システムの利用権限について考える 【事後】 正しいマナーとルールを再確認する
第 8 回	実習 2 (医療情報を扱うもののマナーとルールの評価、講義のまとめ)	【事前】 自身の行動と正しい行動とを比較する 【事後】 講義内容を整理してみる

学修の到達目標
・医療情報の特性について説明できる。 ・病院情報システムを構成する要素について説明できる。 ・医療における標準化の意味を説明できる。 ・電子化された病院や診療所の職員として、利用者マナーやルールを説明できる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①学ぶこと・知ること に、愉しさと喜びを 覚えることができる (知欲)	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつながられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを覚えることができない。
②物事のあり方について深く考え、その本質を見極めようとする ことができる (探究力)	秀	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に献身し専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
③思考や判断に必要な情報を収集・整理・分析し、活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
④根拠に基づき、論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
⑤想いや考えを表現し、他者に伝えることができる (表現力)	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のすべてにおいて十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	30	10	0	0	0	100
評価項目	① 知欲	30	0	0	0	0	0	30
	② 探求力	0	15	0	0	0	0	15
	③ 情報力	15	0	0	0	0	0	15
	④ 論理的思考力	15	0	10	0	0	0	25
	⑤ 表現力	0	15	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	定期試験期間中に実施する筆記試験
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
提出物	①		毎回の授業終了時に提出するレポート
	②	レ	
	③		
	④		
	⑤	レ	
成果発表 (口頭・実技)	①		毎回の授業開始時、授業中、終了時に提出するレポート
	②		
	③		
	④	レ	
	⑤		

履修に必要な知識・技能など
PC（または携帯）を使ってインターネットを利用するスキルを持っていること。
教科書・参考書
教科書：講義資料を適宜配布 参考書：『第4版医療情報サブノート』 日本医療情報学会医療情報技師育成部会 編 篠原出版社 ISBN:978-4-88412-398-7

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
歯科医療と経済 (O22170)		講義	1	15	3	後期	選択必修	—	山下紗矢佳	4号館2階 非常勤講師 控室
社会における歯科医療経営について 考えよう									単独担当	
科目担当者	山下紗矢佳									

授業の概要	この講義では経済・経営の基本的知識の習得を目指す。経済・経営の理論・知識・ノウハウは民間企業のみ求められるものではない。あらゆる組織に必要な視点であり、歯科医療においてももちろん同様である。基本となる経済・経営の知識から、事例考察、国の政策等、包括的に講義を展開する。	
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	身の回りの経済	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 2 回	政策の変遷と経済	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 3 回	経済環境の変化と医療	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 4 回	マネジメントの基本	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 5 回	医療・歯科分野の経営	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 6 回	職業としての医療・歯科分野	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 7 回	医療・歯科経営の現状と今後の課題	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】 講義資料の復習
第 8 回	まとめ	【事前】 日頃から新聞、website 等で医療に関する記事を意識して読むこと 【事後】

学修の到達目標	
1.	日本の医療政策・経営における歯科医療の位置づけを知り理解する。
2.	歯科医療マネジメントと歯科衛生士の関わりを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①歯科医療と経済に関する情報を収集・整理・分析し活用することができる (情報力)	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析・活用できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	50	0	0	0	0	100
評価項目	① 情報力	50	50	0	0	0	0	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	レポート試験 50%
提出物	①	レ	毎回のレポート 50%

履修に必要な知識・技能など	
学生からの意見を求めることもあるので、積極的な授業参加を希望する。 新聞、ウェブサイトをはじめとする報道や雑誌・書籍を通して社会・経済と医療・歯科医療や保健・福祉に関わる情報に関心を持つことが望まれる。	
教科書・参考書	
教科書：なし 参考書：なし	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科保健指導演習Ⅳ (O23370)	演 習	1	30	3	前 期	必 修	—	福田昌代	5 号館 3 階 研究室他
集団歯科保健指導と個別歯科保健指導 実践力の学修								複数担当	
科目担当者	福田昌代、中村美紀、浅枝麻夢可								

授業の概要	歯科保健指導演習Ⅳでは、「歯科保健指導演習Ⅲ」で作成した指導案を元に、実際に使用する媒体を作成するために必要な知識と技術と態度を修得することを目的とする。また、その媒体を使用する集団指導技法について学ぶ。また、「歯科保健指導演習Ⅲ」で担当した1年生の口腔内への介入を行い、個別歯科保健指導実践力を向上させる。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	() ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 対象患者の介入準備 集団歯科保健指導各論：媒体作製について (担当：福田)	【事前】 対象患者への歯科衛生介入に向けての準備シラバスを読んでおく 【事後】 対象患者への歯科衛生介入に向けて最終確認
第 2 回	媒体作成 (学童3期) (担当：科目担当者全員)	【事前】 媒体作成 【事後】 まとめに参考書を活用
第 3 回	媒体作成 (青少年期) (担当：科目担当者全員)	【事前】 媒体作成 【事後】 まとめに参考書を活用
第 4 回	2・3 年合同実習 (歯科衛生過程に基づく介入) ① 情報の伝達と介入 (担当：科目担当者全員)	【事前】 歯科衛生介入に向けての準備実技的内容の事前練習 【事後】 介入内容に対する反省・考察次回に向けての確認
第 5 回	2・3 年合同実習 (歯科衛生過程に基づく介入) ② 1 回目の介入後の経過の確認 業務記録作成 (担当：科目担当者全員)	【事前】 歯科衛生介入に向けての準備実技内容の事前練習 2 年生への学習指導内容の整理 【事後】 業務記録の作成
第 6 回	媒体完成・講話練習 (担当：科目担当者全員)	【事前】 媒体作成・講話練習 【事後】 チェック内容を見直す
第 7 回	教員講和チェック・修正 (担当：科目担当者全員)	【事前】 講話練習 【事後】 チェック内容を見直す
第 8 回	発表 振り返り・まとめ (担当：科目担当者全員)	【事前】 講話練習 【事後】 まとめ

学修の到達目標
1. 対象に合わせた媒体の作成ができる。 2. 作成した媒体を用いて集団歯科保健指導ができる。 3. 集団歯科保健指導を行うに当たってのチームワークの必要性和重要性を学ぶ。 4. 対象患者に応じた、個別歯科保健指導実践のための介入ができる。 5. 個別歯科保健指導実践内容の業務記録を SOPIE の形式で記入することができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各ライフステージの対象者に応じた集団歯科保健指導ができる。 (専門力)	秀	各ライフステージの対象者や集団指導について十分な知識・技術が身についており、それらを活用して実践につなげ、さらに理解を深めることができる。
	優	各ライフステージの対象者や集団指導について十分な知識・技術が身についており、それらを活用することができる。
	良	各ライフステージの対象者や集団指導について、十分な知識・技術が身についている。
	可	各ライフステージの対象者や集団指導について、必要最低限の知識・技術が身についている。
	不可	各ライフステージの対象者や集団指導について、必要最低限の知識・技術が身についていない。
②自発的に演習に取り組み、さらに探究心をもって突き詰めていくことができる。 (探究力)	秀	自発的に演習に取り組み、突き詰めていくことができる。そしてそこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に演習に取り組み、突き詰めていくことができる。
	良	他者（グループメンバー）から促されれば、演習に取り組み、ある程度突き詰めていくことができる。
	可	他者（教員）から促されれば、演習に取り組み、ある程度突き詰めていくことができる。
	不可	演習に取り組み、突き詰めていくことができない。
③対象者に応じた適切な表現ができる。 (表現力)	秀	対象者に応じた適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に必要な表現力を十分に持っており、実践することができる。
	優	対象者に応じた適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に必要な表現力をある程度持っており、実践することができる。
	良	適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に必要な表現力をある程度持っている。
	可	適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）など、集団指導に最低限必要な表現力を持っている。
	不可	適切な言語的表現（言葉）や非言語的表現（表情、ジェスチャー、声の大きさ・トーン、話すスピード）を用いた指導ができない。
④周囲と協調・協働して作業ができる。 (協調性・協働力)	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がり、より良い結果につなげることができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。
⑤医療職に就く者としての自覚があり、心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。
⑥対象患者に対して歯科予防処置と歯科保健指導を実施する技能を身につけている。 (専門力)	秀	対象患者に対して介入計画を立案し、十分な知識と技能をもって、応用して実践につなげることができる。
	優	対象患者に対して介入計画を立案し、十分な知識と技能をもって、応用することができる。
	良	対象患者に対して介入計画を立案するための十分な知識と技能を身につけている。
	可	対象患者に対して介入計画を立案するための知識と技能を身につけている。
	不可	対象患者に対して介入計画を立案するための知識と技能を身につけていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	0	25	15	0	10	100
評価項目	① 対象に応じた歯科保健指導	15	0	5	5	0	0	25
	② 探求心をもって取り組む力	10	0	0	5	0	0	15
	③ 対象者に応じた適切な表現力	15	0	5	5	0	0	25
	④ 周囲との協調性・協働力	10	0	5	0	0	5	20
	⑤ 心身の自己管理	0	0	0	0	0	5	5
	⑥ 歯科衛生介入	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	定期試験期間中に実施するグループ毎の発表 (媒体を用いた集団歯科保健指導のプレゼンテーション)
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
	⑥		
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	最終回で実施するグループ毎の発表 (定期試験のリハーサル) 2年生に対する歯科衛生介入
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
	⑥		
作品	①	レ	指導のために作成した媒体の評価
	②	レ	
	③	レ	
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		授業態度、積極性、忘れ物など グループでの協力度
	②		
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	
	⑥		

履修に必要な知識・技能など	
1. 授業時間内では媒体作成の時間確保が難しいので、授業時間外を積極的に媒体作成の時間にあてること。 2. 1年次に作成したチャートブックを持参し、積極的に活用すること。 3. パワーポイントや黒板を使用したプレゼンテーション方法について復習しておくこと。 4. グループでの作業となるので欠席しないよう体調管理には十分留意すること。 5. 対象者に適切な歯科衛生介入を実践するための実技的な復習を行っておくこと。	
教科書・参考書	
教科書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学』 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 参考書：『明日からできる地域での予防歯科』 NPO 法人ウェルビーイング編 医歯薬出版 『新版 家族のための歯と口の健康百科』 伊藤公一他 編 医歯薬出版 『世界最強の歯科保健指導 ―診療室から食育まで― 上巻』 岡崎好秀著 クインテッセンス出版	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
歯科衛生過程演習 (O23380)	演 習	1	30	3	後 期	必 修	—	吉田幸恵	5号館3階 研究室他
歯科衛生業務の展開に向けて								複数担当	
科目担当者	吉田幸恵、福田昌代								

授業の概要	歯科衛生過程は歯科衛生業務を展開するツールであり1年次からその習得は開始されているが、学修の範囲と深度により、その内容はより患者に相応しい的確なものになっていく。本科目は3年次後期に開講されるため、1、2年次の基礎・専門科目から3年前期の臨床実習科目まで学修した時点での歯科衛生過程の学びになる。本演習では歯科衛生過程を現場で実践することを想定し、すでに学修した知識の理解度や技術の正確性について見極めることを目的とする。 また、歯科衛生士は医療現場や地域社会において多職種との連携が求められていることから、歯科に関連する知識にとどまらず、医療、保健、福祉等に関する継続的な学修の必要性にも言及する。この科目の受講により、関連資格取得や生涯学修のきっかけとなることを期待する。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 () グループワーク () プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション 自己学修法の獲得について (担当者：吉田、福田)	【事前】 自分にあった効果的な学修方法を検討しておく 【事後】 自己評価・振り替りシートを完成させる
第2回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (基礎科目群：人体の構造と機能) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第3回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (基礎科目群：歯・口腔の構造と機能) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第4回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (基礎科目群：疾病の成り立ち及び回復過程の促進) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第5回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (社会歯科科目群：歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第6回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (臨床歯科医学：歯科保存学・歯科補綴学・口腔外科学) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第7回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (臨床歯科医学： 歯科矯正学・小児歯科学・障害者歯科学・高齢者歯科学) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第8回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (歯科予防処置・歯科保健指導) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第9回	歯科衛生アセスメントのための知識の確認 (歯科診療補助) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第10回	歯科衛生介入のための技術の確認 (SRP 技術、う蝕予防技術：填塞・塗布等、歯科診療補助の手法) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習
第11回	歯科衛生介入のための技術の確認 (情報処理力、カウンセリング力、歯科衛生計画立案力、業務記録) (同上)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 授業内容の復習

第 12 回	実践のための応用力の習得（想定問題の解決）	（同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 13 回	実践のための応用力の修得（想定問題の解決）	（同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 14 回	歯科衛生士の生涯学修の必要性	（同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 15 回	歯科衛生業務の展開に向けて	（同上）	【事前】これまでの学びを整理しておく自分の将来像を具体化しておく 【事後】歯科衛生業務の展開のために必要な知識をすべて修得できているか確認する

学修の到達目標
確実な知識を身につけ、歯科衛生業務を展開できるための十分な実力と問題解決能力を養う。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士になるために必要な専門的知識を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科衛生士の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士の専門領域についての知識を一定のレベルで身につけている。
	可	歯科衛生士の専門領域についての知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士の専門領域についての知識を身につけていない。
② 歯科衛生士業務の根拠について論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	定期的に行う専門領域に関するテストで 90% 以上の成績をおさめている。
	優	定期的に行う専門領域に関するテストで 80% 以上 90% 未満の成績をおさめている。
	良	定期的に行う専門領域に関するテストで 70% 以上 80% 未満の成績をおさめている。
	可	定期的に行う専門領域に関するテストで 60% 以上 70% 未満の成績をおさめている。
	不可	定期的に行う専門領域に関するテストでの成績が不振である。(60% 未満)

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		80	0	0	0	0	20	100
評価項目	① 知識の修得	80	0	0	0	0	0	80
	② 論理的思考を問う問題の成績	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	授業後に、学修成果の確認のために筆記試験を実施する。試験は国家試験と同様の形式で実施する。
	②	
その他	①	論理的思考力を確認するため、状況設定問題を中心にした小テストを定期的に実施し、その成績で評価する。
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
歯科衛生士になるための総まとめの科目のため、積極的に学修する。授業に必要と思われる教科書はすべて持参すること。また体調管理に十分注意し、欠席・遅刻・早退をしないように気をつけること。
教科書・参考書
教科書：各科目の教科書とする 参考書：『2022 年度版徹底分析歯科衛生士国家試験問題集』 医歯薬出版 『歯科衛生士のための主要 3 科プラス専門分野問題集第 3 版』 一般財団法人 口腔保健協会 『徹底攻略 科目別歯科衛生士国家試験過去問題集・基礎科目編』 医歯薬出版 『徹底攻略 科目別歯科衛生士国家試験過去問題集・臨床科目編』 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域口腔保健支援実習Ⅰ (O23400)	実 習	3	135	3	前 期	必 修	—	高橋由希子	5号館3階 研究室他
口腔疾患予防における歯科衛生士の 役割を学ぶ								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、宮澤絢子、吉田幸恵、福田昌代、八木孝和、森谷徳文、山城圭介、上原弘美、澤田美佐緒、破魔幸恵、中村美紀、氏橋貴子、水村容子、浅枝麻夢可、川野亜希								

授業の概要	学内の歯科予防処置実習を発展させ、実践能力を養う。歯科診療における歯科衛生士業務を修得するために臨床現場において、歯周治療の流れや歯周疾患の患者への対応法などを習得する。 なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	
アクティブ・ ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実習前：学内にて事前指導を行う。 ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 ・インシデントレポートについて 実習施設：以下の施設にて合計 14 日間の臨地実習を行う。 ①歯科診療所 13 日間 ②神戸常盤大学短期大学部歯科診療所 1 日間 実習後：学内にて振り返りを行う。 ・実習内容について振り返り、内容を発表する。	【事前】実習目標を設定し、対象者別の口腔の特徴や生活、対応法を予習する。 【事後】実習目標の達成度について自己評価を行う。実習内容をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。

学修の到達目標
1. 地域の口腔保健を担う、かかりつけ歯科に勤務する歯科衛生士の役割を学ぶ。 2. 第1次～第3次予防における歯科衛生士の役割について学ぶ。 3. 保護者実習を通じて、歯科衛生士として基本的な対象者への対応ならびに技術の習得状況を確認する。 4. 保護者を担当し、対象者に応じた歯科予防処置が実施できる。 5. 保護者を担当し、対象者に歯科衛生管理の必要性を説明できる。 6. 歯科衛生過程の考え方を理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①歯科衛生士の実務遂行に必要な技能を身につけている。 (専門力)	秀	歯科衛生士についての技能を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	歯科衛生士についての技能を両方とも十分なレベルで身につけており、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	歯科衛生士についての技能を身につけており、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	歯科衛生士についての技能を最低限身につけている。
	不可	歯科衛生士についての技能を身につけていない。

②歯科衛生士になるための学修や知識習得に楽しさを覚えることができる。 (知欲)	秀	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。また、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修に導くことができる。
	優	自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、学修に楽しさを見出すことができる。
	可	他者からの促しによって学修し、他者からの指摘により楽しさを見出すことができる。
	不可	学修や知識習得に楽しさを見出すことができない。
③患者の口腔内を観察し、効果的なケア方法について考察することができる。 (論理的思考力)	秀	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し分析した上で、効果的なケア方法について十分考察し、実行することができる。
	優	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し、効果的なケア方法について考察し、実行することができる。
	良	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し、効果的なケア方法について考察することができる。
	可	講義演習で学んだことをふまえて、患者の口腔内を観察し、ケア方法についてある程度考察することができる。
	不可	患者の口腔内観察やケア法について考察することができない。
④実習内容を振り返り、知識・技能の修得に導くための考察を行うことができる。 (省察力)	秀	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を確実に行うことができ、次の実習につなげることができる。
	優	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を十分なレベルで行うことができ、次の実習につなげることができる。
	良	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を一定のレベルで行うことができる。
	可	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を最低限のレベルで行うことができる。
	不可	実習後のポートフォリオにおいて、自身の知識・技能の修得のための考察を行うことができない。またはポートフォリオを記載しない。
⑤実習に対し知識・技能を学び、考え、行動する。 (継続力)	秀	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって、楽しみながら物事に打ち込み続けることができる。
	優	内発的動機づけのもと、十分な忍耐力・継続的実行力をもって物事に打ち込み続けることができる。
	良	ある程度自発的に、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	可	他者からの助言や何らかの外的条件づけのもと、忍耐力・継続的実行力を示すことができる。
	不可	忍耐力・継続的実行力がない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	20	0	50	30	100
評価項目	① 技能の修得	0	0	5	0	10	5	20
	② 知識習得	0	0	5	0	10	10	25
	③ 論理的思考力	0	0	5	0	10	5	20
	④ 省察力	0	0	5	0	10	5	20
	⑤ 継続力	0	0	0	0	10	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	実習に対するモチベーションについて口頭試問および実技試験を行い、評価する。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
ポートフォリオ	①	レ	各自実習の取り組みを自ら振り返り評価する実習日誌を、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオの評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。ワークシートや実習日誌が欠落している場合は減点の対象となる。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
その他	①	レ	主体的・能動的に取り組んだ事については、加点の評価対象となる。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
歯科予防処置に関連する内容については十分に理解して実習に臨む必要があるため、臨床歯科Ⅰ、歯科予防処置論、歯科予防処置演習について関連する教科書、資料を必ず実習までに熟読する。また、PMTCの基本的な手技については復習し、実践できるように自宅や実習先で練習すること。さらに歯科衛生過程についても必ず理解を深めておくこと。
教科書・参考書
教科書：特記事項なし 参考書：『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『新歯科衛生士教本 歯科予防処置』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『新歯科衛生士マニュアル 歯周病学』上田雅俊 他編 クインテッセンス出版 『歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習 HAND BOOK』高阪利美 他著 クインテッセンス出版 『新常用歯科辞典』中原 泉 医歯薬出版 『歯科衛生ケアプロセス実践ガイド』佐藤陽子 他編著 医歯薬出版 ※その他実習に関係のある図書は自己選択する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
地域口腔保健支援実習Ⅱ (O23410)	実 習	2	90	3	通 年	必 修	—	福田昌代	5号館3階 研究室他
地域での集団に対する歯科保健指導								複数担当	
科目担当者	福田昌代、吉田幸恵、上原弘美、澤田美佐緒、中村美紀、宮澤絢子、浅枝麻夢可								

授業の概要	地域における各ライフステージの対象者に応じた集団歯科保健指導を推進することにより、地域活動における歯科衛生士の役割を理解し、集団指導の実践力と応用力を修得する。また、多職種連携教育（IPE）の一環として、他学科の学生を対象に歯科保健指導を行い、地域活動におけるマネジメント力を培う。 なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 実習、フィールドワーク () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () 反転授業 () その他 ()	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実 習 前：臨地実習事前指導（学内） 実 習 後：臨地実習振り返り指導（学内） 実習施設等：神戸常盤大学内、神戸市内の小学校、幼稚園、保育所、高等学校、「歯と口の健康週間」に行われる地域の歯科保健活動の会場等	【事前】 集団指導の講話練習 【事後】 講話内容に対する反省・考察と次回改善方法の検討

学修の到達目標
1. 幼児期・学童3期・青少年期を対象に集団歯科保健指導を行うことができる。 2. 「歯と口の健康週間」「いい歯の健康活動」を実施している地域行事に参加し、地域歯科保健における歯科衛生士の役割を理解する。 3. 歯科衛生士と多職種の専門性の違いを理解し、個々の役割について確認する。 4. 歯科衛生業務を行う上で、多職種に対しマネジメント力が必要であることを理解する。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①集団指導の場で歯科生業務を行うために必要な一般常識や礼儀が身に付いている。 (常識力)	秀	一般常識や礼儀が身に付いており、あらゆる場面で現場責任者と積極的に連絡・報告・相談して対応し、リーダー性を発揮できる。
	優	一般常識や礼儀が身に付いており、多くの場面で現場責任者と積極的に相談し指示を仰ぐことができる。
	良	一般常識や礼儀が身に付いており、現場責任者の指示に対応できる。
	可	必要最低限の一般常識や礼儀が身に付いているが、現場責任者の指示に対応できない。
	不可	必要最低限の一般常識や礼儀が身に付いていない。
②各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導ができる。 (専門力)	秀	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、十分な知識・技術が身に付き実践することができ、現場の状況に柔軟に対応でき、指導者らしい態度と行動ができる。
	優	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、十分な知識・技術が身に付き実践することができ、現場の状況に柔軟に対応できる。
	良	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、十分な知識・技術が身に付いており、実践できる。
	可	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、必要最低限の知識・技術が身に付いているが実践できない。
	不可	各ライフステージの場に応じた集団歯科保健指導について、必要最低限の知識・技術が身に付いていない。
③心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。
④自分の思考や行動に対して、客観的な評価ができる。 (省察力)	秀	常に自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行い、さらなる望ましい思考や行動へとつなげることができ、他学生の手本となる。
	優	自発的に、自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行い、さらなる望ましい思考や行動へとつなげることができる。
	良	ある程度自発的に、自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができる。
	可	他者からの助言のもと、自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができる。
	不可	自分の思考や行動を客観的に捉え、適切な評価を行うことができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	20	0	0	30	50	100
評価項目	① 一般常識や礼儀	0	0	0	0	0	25	25
	② 実習に必要な知識・技術	0	20	0	0	0	0	20
	③ 心身の自己管理	0	0	0	0	0	25	25
	④ 自分に対する客観的な評価	0	0	0	0	30	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	①	実習前レポート（事前指導終了後） 実習後レポート（振り返り終了後）
	② レ	
	③	
	④	
ポートフォリオ	①	小学校・幼稚園・高等学校での実習記録（見学評価・自己評価）
	②	
	③	
	④ レ	
その他	① レ	実習態度、積極性、忘れ物、など
	②	
	③ レ	
	④	

履修に必要な知識・技能など
1. 1・2年で学んだことを活かす臨地実習科目である。実習に必要な知識に関して復習を十分に行ない実習に望むこと。 2. 歯科保健指導演習ⅢとⅣで学び、準備したことを実践する場である。グループで時間外に練習を重ねること。 3. 多職種連携を目的とした看護学生との実習では、オーラルリハビリテーション演習および口腔保健衛生学実習Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。 4. 実習はグループごとに行うため、特別な理由がない限り欠席は認めない。 5. グループ内で、役割分担の役目を果たし、チームワークよく取り組むこと。 6. 一回限りの実習が多いため補講が難しい。特別な理由がない限り欠席は認めない。
教科書・参考書
教科書：特になし 参考書：必要に応じて随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
診療補助実習Ⅱ (O23440)	実 習	3	135	3	前 期	必 修	—	上原弘美	5号館3階 研究室
チーム医療の一員としての 歯科衛生士の役割を学ぶ								複数担当	
科目担当者	上原弘美、水村容子								

授業の概要	病院歯科における臨床実習を通して、患者を中心としたチーム医療のあり方について学び、多職種連携における歯科衛生士の役割を知る。また全身疾患と口腔の関係を理解し、全身疾患を有する患者の口腔衛生管理について学習する。安全で質の高い歯科医療を提供するために歯科衛生士として必要な全身管理の知識・技術を習得して、歯科診療補助に応用できる能力を身につけることを目的とする。 なお当該科目は、医療現場において歯科衛生士の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT（manaba）活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT（manaba）活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習（外部協定 有 ・ 無 ） ☐ その他（ ）

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実習前：学内にて事前指導を行う。 ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 実習施設：病院歯科にて臨地実習を行う。 実習後：学内にて振り返りを行う。 ・振り返り、考察を行う。（グループワーク） ・振り返り内容をプレゼンテーションする。	【事前】 実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習をおこなう。 【事後】 実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学んだ内容をまとめる。 自己学習をおこなう。

学修の到達目標
1. 病院歯科の役割・機能を知る 2. 歯科口腔外科における歯科診療補助を理解する 3. チーム医療における歯科衛生士の役割と責任を理解する 4. さまざま全身疾患と口腔の関係について学ぶ 5. 全身疾患を有する患者の口腔衛生管理について学ぶ 6. 歯科医療において必要な全身管理について学ぶ 7. 医療安全・感染予防対策について理解する 8. 実習を通して、医療職種としての歯科衛生士の基本的態度を養う

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナルリズムも持ち合わせている。
	優	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナルリズムも伴っている。
	良	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を身につけている。
	不可	全身疾患を持つ患者や口腔外科疾患患者への対応についての歯科衛生士としての知識・技術を身につけていない。
② チーム医療の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	チーム医療の一員として必要とされていることに臨機応変に応えることができる。つまり自由意志のもとに決断し、その場に適した態度を取ることができる。
	優	チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。仮に応えられなかったときも、その場で取るべき態度を自覚できる。
	良	チーム医療の一員として必要な存在であると十分理解している。促されてその場に適した態度を取ることができる。
	可	チーム医療の一員としてその場から何かを必要とされていることはわかっている、何かをしたいという意志はある。
	不可	チーム医療の一員として何かを得たいと求めることはできるが、自分がその場に何かできることはないだろうかという発想はない。
③ 情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④ 自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	① 専門的な知識・技術	0	0	0	0	0	25	25
	② チーム医療を担う者としての責任感	0	0	0	0	0	25	25
	③ コミュニケーション能力を用いた正確な情報収集と適切な判断力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 自分の学びを振り返り改善する力	0	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	レ	臨地実習指導者評価 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など	
臨地実習では2年次後期までに学習した全ての知識・技術が必要になる。学習した内容を整理し復習して自分のものにしておくこと。欠席することのないよう、体調を自己管理して臨むこと。	
教科書・参考書	
教科書：使用しない 参考書：『新常用歯科事典』 中原 泉 医歯薬出版 『臨床実習 HAND BOOK (歯科衛生士教育サブテキスト)』 真木吉信監著 クインテッセンス出版	

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資格 取得 要件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
口腔保健衛生学実習Ⅱ (O23460)	実 習	3	135	3	前 期	必 修	—	澤田美佐緒	5号館3階 研究室
要介護者・障がい者への 対応方法を学ぶ								複数担当	
科目担当者	澤田美佐緒、江崎ひろみ、吉田幸恵								

授業の概要	高齢者施設・障害者歯科診療等における実習を通して、要介護高齢者・障がい者に対する歯科衛生士の役割について学びます。特別な配慮を要する対象者の生活している場面で実習を行うことで、対象となる方々の状態を捉え、コミュニケーションの取り方や対応方法を習得します。また、歯科衛生士が担う口腔保健の意義を理解し、口腔健康管理を実践できる能力を養います。また、保健所の実習では地域保健について学びます。 なお当該科目は、医療現場等において歯科衛生士および看護師の実務（臨床）経験を有した教員より、授業を通して歯科衛生士に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。	
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
	実習前：学内にて事前指導を行う。 ・実習概要の説明 ・各実習の目的と特徴の理解 ・連絡方法の確認 ・実習目標の設定 実習施設：以下の①と②の施設にて臨地実習を行う。 ①高齢者施設 ②口腔保健センター・保健所・回復期医療施設などのうちいずれか1か所 実習後：学内にて振り返りを行う。 ・グループワークを用いた振り返り、考察を行う。 ・振り返り内容を発表する。 (担当：科目担当者全員)	【事前】 実習目標を設定する。 翌日の実習に応じた予習をおこなう。 【事後】 実習目標の達成状況を振り返る。 実習日誌に学んだ内容をまとめる。 自己学習をおこなう。

学修の到達目標
1. 高齢者施設、口腔保健センター、保健所等の役割・機能を知る。 2. 要介護高齢者・障がい者の全身状態や生活などを理解できる。 3. 障害を持つ人に対する歯科治療や回復期・維持期における支援の方法を知り、対応できる能力を養う。 4. 特別な配慮が必要な人に対する歯科衛生士の役割を理解できる。 5. 口腔保健に関わる地域支援の仕組みや歯科衛生士の業務について学ぶ。 6. 歯科診療所以外の施設における多職種との連携について学ぶ。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①各専門職の実務遂行に必要な知識・技能を身につけている (専門力)	秀	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を身につけている。
	不可	高齢者や障がい者に対する対応方法についての知識・技術を身につけていない。
②チーム医療の一員としての責任をもって物事に臨むことができる (責任感)	秀	チーム医療の一員として必要とされていることに臨機応変に応えることができる。つまり自由意志のもとに決断し、その場に適した態度を取ることができる。
	優	チーム医療の一員として必要とされていることに応えることができる。仮に応えられなかったときも、その場で取るべき態度を自覚できる。
	良	チーム医療の一員として必要な存在であると十分理解している。促されてその場に適した態度を取ることができる。
	可	チーム医療の一員としてその場から何かを必要とされていることはわかっていて、何かをしたいという意志はある。
	不可	チーム医療の一員として何かを得たいと求めることはできるが、自分がその場に何かできることはないだろうかという発想はない。
③情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、自分で十分に適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、コミュニケーション能力を用いてその場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者とコミュニケーションをとり、助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	他者とコミュニケーションを取って、適切な状況判断ができない。
④自己の思考や行動を振り返り、改善の道を常に模索することができる (省察力)	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	0	0	0	0	100	100
評価項目	① 専門力	0	0	0	0	0	25	25
	② 責任感	0	0	0	0	0	25	25
	③ 判断力	0	0	0	0	0	25	25
	④ 省察力	0	0	0	0	0	25	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
その他	①	レ	臨地実習指導者評価 詳細な評価項目・基準は臨地実習要綱・要領に記載あり
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など
臨地実習では、2 年次後期までに学んだすべての知識・技術が必要になる。 特に、オーラルリハビリテーション・オーラルリハビリテーション演習・歯科診療補助演習Ⅲで学んだ内容を復習し理解を深める。 また、体調管理に十分留意して、実習に臨む。
教科書・参考書
教科書：『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科第 2 版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 障害者歯科第 2 版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学第 2 版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第 2 版』全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版 『歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第 2 版』公益社団法人日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版 参考書：随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
災害時の歯科衛生士の働き (O23500)	演 習	1	30	3	後 期	必 修	—	高橋由希子	5号館3階 研究室他
被災地での歯科保健活動								複数担当	
科目担当者	高橋由希子、室崎友輔、福田昌代、八木孝和、水村容子、氏橋貴子、川野亜希								

授業の概要	災害時および防災の取り組みについて、歯科医療従事者、特に歯科衛生士の役割を理解し、危機的状況下でも柔軟に対応できる力を養う。これらの学びを通して、命の大切さを知り、高い倫理観を培う。	
アクティブ・ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション (レ) 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション (担当者：高橋)	【事前】 シラバス内容の確認 【事後】 演習内容の復習
第 2 回	大震災の概要と問題点 災害を知る【人と防災未来センター見学】 (担当者：高橋)	【事前】 施設の概要について予習 【事後】 演習内容の復習
第 3 回	大震災の概要と問題点 災害を知る【人と防災未来センター見学】 (担当者：高橋)	【事前】 施設の概要について予習 【事後】 演習内容の復習
第 4 回	「災害時の口腔保健の重要性」 防災対策編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習
第 5 回	「災害時の口腔保健の重要性」 防災対策編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習
第 6 回	救急蘇生 (担当者：高橋、福田、八木、水村、氏橋、川野)	【事前】 教本の確認 【事後】 救急救命の意義について考察
第 7 回	救急蘇生 (担当者：高橋、福田、八木、水村、氏橋、川野)	【事前】 教本の確認 【事後】 救急救命の意義について考察
第 8 回	健康フェスタでのボランティア活動 (担当者：高橋)	【事前】 地域住民への口腔保健について考察 【事後】 地域住民への貢献の意義
第 9 回	健康フェスタでのボランティア活動 (担当者：高橋)	【事前】 地域住民への口腔保健について考察 【事後】 地域住民への貢献の意義
第 10 回	異なる避難所についてのワークショップ (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第 11 回	避難所体験 (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第 12 回	防災啓発手法の実際 (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第 13 回	災害と防災対策 (担当者：室崎)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 ワークショップ内容の復習
第 14 回	「災害時の口腔保健の重要性」 活動編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習
第 15 回	「災害時の口腔保健の重要性」 活動編 (担当者：高橋)	【事前】 事前課題を考察 【事後】 グループワーク内容の復習

学修の到達目標	
1. 災害時における口腔保健の重要性を理解する。 2. 災害時における歯科および歯科衛生士の役割を説明できる。 3. 防災の重要性とその方法について説明できる。 4. 災害時の支援対象者を理解する。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①災害時の歯科衛生の基礎的な知識を身につけている。 (専門力)	秀	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を確実に身につけている。
	優	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を十分なレベルで身につけている。
	良	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を一定のレベルで身につけている。
	可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	災害時の必要な歯科保健および歯科衛生の知識を身につけていない。
②失敗を恐れず、想いや考えを具体的行動にすることができる。 (実行力)	秀	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などを高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている専門知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直感、決断力などのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしたらいいかわからない。
③社会の一員としての責任を持って物事に臨むことができる。 (責任感)	秀	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。使命感を持ち、見返りを求めることはない。メリットは結果的に副産物として生ずるものであるとわかっている。
	優	社会の一員として自由意志のもと決断しその場に適した態度を取る事ができる。
	良	その場から問われていることに応えることができ、その場に適した態度を取る事ができる。
	可	その場から何かを問われていることはわかっている、何かをしたいという意思はある。
	不可	何かを獲得しメリットを享受したいと求めるが、自分がその場に何ができることはないだろう、という発想はない。
④誰かの役に立つことに喜びを感じ、具体的に行動することができる。 (貢献力)	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。また自分の貢献力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者から支持されれば、周囲に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げってしまう。
⑤自他の利害をこえて、協力して物事に取り組むことができる。 (協調性・協調力)	秀	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法については、他者が理解できるように配慮する能力がある。
	優	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができる。その際、文字や話し言葉、表現方法は適切であり、他者が理解しやすい。
	良	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を、文字や話し言葉、態度等の表現方法で他者に伝えることができる。
	可	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を何らかの方法で他者に伝えることができる。
	不可	グループワークやワークショップの発表において、自分自身の思いや意見を他者に伝えることができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		30	20	25	0	20	5	100
評価項目	① 専門力	30	10	5	0	5	0	50
	② 実行力	0	5	5	0	5	0	15
	③ 責任感	0	5	5	0	5	0	15
	④ 貢献力	0	0	5	0	5	0	10
	⑤ 協調性・協調力	0	0	5	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	レポート試験を実施する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
提出物	①	レ	必要に応じて指示された課題に対しレポートを提出する。 ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているかを評価する。
	②	レ	
	③	レ	
	④		
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①	レ	成果発表をルーブリックの評価基準に基づいて評価する。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
ポートフォリオ	①	レ	各自が演習で取り組むワークシートを、それぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオ評価は蓄積された成果を公平な観点から評価する。ワークシートや自らの考察が欠落している場合は減点の対象となる。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
その他	①		グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。
	②		
	③		
	④		
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など
1. 「災害援助と救急医療」で学習した災害時の保健医療対策の基礎および概要を復習し、相互の繋がりを意識し、講義の整理をする。 2. 日本や世界で起こっている災害（人災・天災）について意識を向け、その情報を収集し、授業内容と照らし合わせながら災害の理解を深める。 3. 講義の際は、創造力と探究心を忘れず持って臨む。 4. グループワークの際は、自身の意見を積極的に伝え、他者の意見に耳を傾けることに留意し、チーム全員で協力してグループの意見をまとめる。
教科書・参考書
教科書：『救急蘇生法の指針 2020 市民用』日本救急医療財団心肺蘇生委員会監修 へるす出版 参考書：『口腔外科学・歯科麻酔学』池邊哲郎他編集 クインテッセンス出版 『災害時の歯科保健医療対策』日本災害時公衆衛生歯科研究会 編集 一世出版 『災害時の公衆衛生－私達にできること』國井修編集 南山堂 『歯科における災害対策－防災と支援』中久木康一 編集 砂書房 『シミュレーションで学ぶ避難所の立ち上げから管理運営 HAPPY エマルゴトレイン手法を用いて』山崎達枝監修 荘道社 『災害歯科医学』槻木恵一編 医歯薬出版 『保健生態学第二版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版』全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
ボランティアの理論と実践 (O23510)		演 習	1	30	3	前 期	選 択 必 修	—	清水勲夫	4号館2階 非常勤講師 控室
生き方としてのボランティア									複数担当	
科目担当者	清水勲夫、長谷部治									

授業の概要	自由で意思、意欲のある人、としての意味をもつ「ボランティア」という言葉。フランス語では「よろこび」という源義もあるといわれる。社会市民としてのこれからの生き方、暮らし方を共に考える機会としたい。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☒ ディスカッション、ディベート ☒ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	1. ボランティアとは何か ①日本語にはなりにくい言葉 ②ボランティア活動の特性 (担当者: 清水)	【事前】 シラバスチェック 【事後】 学習の振り返り、ノートチェック
第 2 回		
第 3 回	2. 生き方としてのボランティア活動 ①今日の社会とボランティア活動 ②体験学習「ブラインドデート」 (担当者: 清水)	【事前】 前回ノート、チェック 【事後】 学習の振り返り、ノートチェック
第 4 回		
第 5 回	3. いろんな社会課題を考えてみよう ①「SDGs」って何？ ②討議実習「あなたの大切なもの」 (担当者: 清水)	【事前】 SDGs とは何か、調べておく 【事後】 どれだけ社会に問題意識があるか？チェック
第 6 回		
第 7 回	4. 救援活動とボランティア ①実際事例、体験から何を学ぶ ②緊急時の救援活動とボランティア (担当者: 長谷部)	【事前】 過去・直近の災害事例から救援活動を洗い出し 【事後】 自身が遭遇、体験した時を想定
第 8 回		
第 9 回	5. ボランティア活動とマネジメント ①活動の目的・目標からの検証・評価 ②何をもって成果とするか (担当者: 清水)	【事前】 これまでのノートをチェック 【事後】 ノート、資料、体験活動の整理
第 10 回		
第 11 回	6. ボランティア活動の実践（学外実習） 地域での実践活動 地域での実践活動 (担当者: 清水)	【事前】 集合時間、持ち物、服装点検 【事後】 経験を意識化し、気づき考えた事等を整理
第 12 回		
第 13 回	7. 実践活動のふりかえり ①何が体験出来たか、学びは何か ②地域をもっと知ろう（体験実習） 地域ウォークラリー (担当者: 清水)	【事前】 前回の体験を整理、発表準備。靴・服装チェック 【事後】 「地域」について情報、再整理
第 14 回		
第 15 回	8. これからの生き方としてのボランティア活動（討議） (担当者: 清水)	【事後】 テーマレポート作成

学修の到達目標
大人、職業人として、またこれから社会の一員として、時に偶然の隣人として、何かが求められる場面がきっとあります。必要な場面で、互いに支え合う「共生の社会」の担い手として、その知恵やスキルを学び合い、身に付けておきましょう。体験学習の機会も通し、理論と実践を学びます。「あなたが、そばに居てくれて良かった」と思ってもらえる、そんな大人をめざして。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①多様な人と関わることでできる人間性の基盤としての教養を身に付けている (教養力)	秀	「優」の κατηγοリーで、その点において人、社会に対し、影響力を持続的に持てる
	優	全ての人に自然なふるまいとして、明朗で温かい対応が取れ、弱者には寄り添う事ができる
	良	演習等で、期待されるひと通りの行動が取れ、そこからの学びでさらに向上する姿勢が見られる
	可	身近な隣人との関わりに大きな困難や違和感がなく、ひと通りの行動が取れる
	不可	隣人や困っている人への関心がなく、好意的態度を示すことがない
②情報や思考に基づき、状況に対して適切な判断をすることができる (判断力)	秀	失敗体験は無論、成功体験からもより学びを求める姿勢があり、常に高いレベルを求めている
	優	知識、経験を生かし、それから得られる直観や決断力を駆使し、適切な状況判断ができる
	良	ある程度の判断力があり、積極的な姿勢も見られ、自力で状況判断できる
	可	他者の助言、指導のもとに、その場に即した状況判断や協調した態度がある程度取れる
	不可	適切な状況判断ができていない
③失敗を恐れず思いや考えを身体活動に移すことができる (実行力)	秀	自らの経験や、場の情報などの状況判断から、短時間で即応的な課題対応を連続的に展開できる
	優	自らの経験や、場の情報などを判断し、決断力をもって自立的かつ適切な課題の遂行ができる
	良	自らの経験や、場の情報などの状況判断から、試行錯誤しながらも一応の課題遂行ができる
	可	他者の助言、指導のもとに、与えられた課題を一定レベルで実行することができる
	不可	いろいろな状況や場面で、自ら何をしたらよいのかわからず、行動が滞ることが多い
④誰かの何かの役に立つことに喜びを感じ、主体的に行動することができる (貢献力)	秀	自発的に周囲に貢献でき、その輪が周囲に影響を与え、さらに社会的な広がりも期待される
	優	自発的に周囲に貢献でき、それによって周囲のモチベーションをさらに上げることもできる
	良	ある程度、自発的に周囲に対しては貢献できる
	可	他者から指示、促されたりし、集団で行なうときなどには、何らかの貢献活動はできる
	不可	貢献について、積極性がなく、周囲のモチベーションに水を差すことがある

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		60	0	0	0	0	40	100
評価項目	① 教養力	20	0	0	0	0	10	30
	② 判断力	20	0	0	0	0	10	30
	③ 実行力	10	0	0	0	0	10	20
	④ 貢献力	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	与えられたテーマに基づくレポート作成において、独自性、体験者の視点、社会を見つめ捉える視点等の想像性や公正さ、自身の行動への洞察力等がどう織り込まれているかについて関心があります。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	
その他 (実習、演習)	①	レ	学外の体験実習や授業の演習、実習等に臨む態度、姿勢に積極性を望みます。うまくこなすことに拘る必要はなく、それなりに真剣で正直な取り組みであれば、それが一つの成果です。単にこなす、というより活動や場面の意味を考えて行動する試行錯誤や問題意識の持ち方がより求められます。
	②	レ	
	③	レ	
	④	レ	

履修に必要な知識・技能など
人を助けることもまた、人に助けを求めることも、生きていく上で時として必要なことです。そうした場面では思いの伴った行動が具体的に求められます。決して特殊な、また特定の人だけの行動、活動ではありません。この科目を選択した理由が、明日の自分に何か役立つかも、という思いがあったのでしたら嬉しい事です。それで十分です。
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
コミュニケーション イングリッシュ (O23520)	演 習	1	30	3	前 期	選 択	—	脇本聡美	7号館5階 研究室
Develop English proficiency								単独担当	
科目担当者	脇本聡美								

授業の概要	The purpose of this course is to improve English proficiency through a variety of practical activities. The emphasis is also laid on motivating students to play an active role in international communities.	
アクティブ・ ラーニングの要素	(レ) ICT (manaba) 活用の双方向型授業 (レ) ディスカッション、ディベート () 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Orientation Self-introduction	【事前】 Reading the syllabus 【事後】 Writing self-introduction
第 2 回	Unit 1 Spain	【事前】 Work sheet Unit 1 【事後】 Unit 1
第 3 回	Group discussion based on the work sheet / Unit 1 Travel Adventures: At the Airport	【事前】 Listening assignment 1 【事後】 Unit 1
第 4 回	Unit 3 Peru / Presentation: The city I'd like to visit (2 stu- dents)	【事前】 Work sheet Unit 3 【事後】 Unit 3
第 5 回	Group discussion based on the work sheet / Unit 3 Travel Adventures: At the Hotel / Presentation: The city I'd like to visit (2 stu-dents)	【事後】 Preparing for the quiz (Unit 1 & 3)
第 6 回	Quiz / Unit 5 New York / The city I'd like to visit (2 stu-dents)	【事前】 Work sheet Unit 5 【事後】 Unit 5
第 7 回	Group discussion based on the work sheet / Unit 5 Travel Adventures: Getting Directions / Presentation: The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Listening assignment 2 【事後】 Unit 5
第 8 回	Unit 7 India / The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Work sheet Unit 7 【事後】 Unit 7
第 9 回	Group discussion based on the work sheet / Unit 7 Travel Adventures: Shopping / Presentation: The city I'd like to visit (2 students)	【事後】 Preparing for the quiz (Unit 5 & 7)
第 10 回	Quiz / Unit10 Cambodia / Presentation: The city I'd like to visit (2 stu-dents)	【事前】 Work sheet Unit 10 【事後】 Unit 10
第 11 回	Group discussion based on the work sheet / Unit 10 Travel Adventures / Bargaining / Presentation: The city I'd like to visit (2 stu-dents)	【事前】 Listening assignment 3 【事後】 Unit 10
第 12 回	Unit 11 Egypt / Presentation: The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Work sheet Unit 11 【事後】 Unit 11
第 13 回	Group discussion based on the work sheet / Unit 11 Travel Adventures: Home Visit / Presentation: The city I'd like to visit (2 stu-dents)	【事前】 Listening assignment 4 【事後】 Unit 11
第 14 回	Unit 12 Italy / Presentation: The city I'd like to visit (2 students)	【事前】 Work sheet Unit 12 【事後】 Unit 12

第 15 回	Unit 12 Travel Adventures: At a Restaurant / Presentation: The city I'd like to visit (2 students) / Review	【事後】 Preparing for the exam
--------	---	-----------------------------

学修の到達目標
1. Students will increase proficiency in English. 2. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①Listening (Information literacy)	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
②Speaking (Expressiveness)	秀	Always communicates with correct grammar, vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar, vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities
③Reading (Critical thinking)	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
④Writing (Logical thinking)	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures, but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure, and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure, and does not have grammatical competence
⑤Multicultural understanding (Intelligence)	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わせることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	10	20	0	0	20	100
評価項目	① Listening	10	0	0	0	0	5	15
	② Speaking	0	0	15	0	0	0	15
	③ Reading	15	3	0	0	0	0	18
	④ Writing	15	7	3	0	0	12	37
	⑤ Multicultural understanding	10	0	2	0	0	3	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	A Written Examination
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤	レ	
提出物	①		Self-introduction & report
	②		
	③	レ	
	④	レ	
	⑤		
成果発表 (口頭・実技)	①		Presentation
	②	レ	
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	
その他	①	レ	Quizzes
	②		
	③		
	④	レ	
	⑤	レ	

履修に必要な知識・技能など		
1. Class participation	2. Preparation and review	3. Completion of assignments
教科書・参考書		
教科書：Globe Trotters: Practical English with Video / Carmella Lieske センゲージラーニング		
参考書：Introduced as needed		

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)	授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル								担当形態	
海外研修 (O23530)	演 習	1	30	3	前 期	選 択	—	山城圭介	5 号館 3 階 研究室他
アメリカの歯科衛生士教育 業務・役割の学修								複数担当	
科目担当者	山城圭介、宮澤絢子、浅枝麻夢可								

授業の概要	歯科衛生士発祥の地であるアメリカ合衆国の歯科衛生士教育の現場見学や講義聴講により、歯科衛生士の口腔疾患予防と治療への取り組みや日本との違いを理解する。 また、歯科医療および口腔保健に関わるグローバル企業の見学を通じて、企業の取り組みを学修する。 海外研修を通じて口腔保健の立場から国際貢献できる基礎能力を養う。	
アクティブ・ラーニングの要素	() ICT (manaba) 活用の双方向型授業 () ディスカッション、ディベート (レ) 実習、フィールドワーク () 反転授業	(レ) ICT (manaba) 活用の自主学習支援 (レ) グループワーク (レ) プレゼンテーション () 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) () その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	アメリカ合衆国の医療制度について (担当者：山城、宮澤、浅枝)	【事前】 シラバスを事前に読んでおくこと 【事後】 学びの振り返り
第 2 回	アメリカ合衆国の医療制度について (担当者：山城、宮澤、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 3 回	アメリカ合衆国での市場調査の方法について (担当者：山城、宮澤、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 4 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 5 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 6 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 7 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 8 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 9 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 10 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 11 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 12 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 13 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 14 回	アメリカ合衆国での研修 (担当者：山城、浅枝)	【事後】 学びの振り返り
第 15 回	海外研修成果の発表 (担当者：山城、浅枝)	【事前】 研修内容を整理しておく 【事後】 本授業の振り返り

学修の到達目標	
1. 日本とアメリカの歯科衛生士の教育、資格、業務内容などの相違について説明できる。 2. アメリカの先進的な歯科医療事情や企業の取り組みを説明できる。 3. アメリカと日本の医療制度の違いを説明できる。	

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
①自らの心身の健康を適切に管理することができる (自己管理能力)	秀	自らの健康に非常に留意し、授業に積極的かつ集中して取り組むことができる
	優	自らの健康に留意し、授業に積極的かつ集中して取り組むことができる
	良	自らの健康に留意し、授業に取り組むことができる
	可	自らの健康に非常に留意する意識を持って、授業に取り組もうとしている
	不可	自らの健康に非常に留意する意識を持たず、授業に臨んでいる
②自他の利害を超えて協力して物事に取り組むことができる (協調性・協働性)	秀	授業において、自らの役割を積極的に見出し、他者と協力して物事に取り組むことができる
	優	授業において、自らの役割を見出し、他者と協力して物事に取り組むことができる
	良	授業において、与えられた役割を、他者と協力して物事に取り組むことができる
	可	授業において、他者と協力して物事に取り組もうとしている
	不可	授業において、他者と協力して物事に取り組む姿勢が見られない

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		0	30	30	0	0	40	100
評価項目	① 自己管理能力	0	15	15	0	0	20	50
	② 協調性・協働性	0	15	15	0	0	20	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
提出物	① レ	海外研修中、あるいは海外研修後のレポートを評価する
	② レ	
成果発表 (口頭・実技)	① レ	海外研修前のプレゼンテーション課題の作成、海外研修後のポスター発表、学会発表への取り組みを評価する
	② レ	
その他	① レ	あらかじめ質問したいことを英語で準備しているか、海外研修中に疑問が生じた際、臆することなく質問ができるかを評価する
	② レ	

履修に必要な知識・技能など
アメリカ合衆国及び日本国の渡航制限状況により、感染症・抗体価証明が求められること、渡航そのものを見合わせることもある。 コミュニケーションングリッシュを必ず履修する。 第1回から第4回までの講義は必ず受講すること。 大学祭時にポスターを作成して発表する。
教科書・参考書
教科書：使用しない 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授業 形態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
口腔保健特論 I (ZO2060)		講 義	1	15	3	後 期	選 択	—	八木孝和	5号館3階 研究室
歯科衛生士への総まとめ									複数担当	
科目担当者	八木孝和、森谷徳文、山城圭介、川野亜希									

授業の概要	歯科衛生士には基礎的学問から歯科臨床の専門分野に至る幅広い知識が必要である。臨地実習終了後、卒業するまでの間にそれらを理解し、歯科衛生士になるための最低限の知識を有し、問題解決能力を身につけなければならない。本特論では多岐にわたる教科の内容を、演習問題を通じて整理して知識を集約する。また総合的な説明や解説を行いながら問題解決に向けた思考力と判断力を身につけて、歯科衛生士として最低限の知的基準に達することを狙いとする。	
アクティブ・ラーニングの要素	☐ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	歯科衛生士となるべき心構え (担当者：吉田)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 歯科衛生士としての心構えを再確認すること
第 2 回	総合演習問題から習熟度の低い基礎医学分野の集中講義を行う。(主に微生物学) (担当者：川野)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 解説講義の内容を必ず復習すること
第 3 回	総合演習問題から習熟度の低い基礎医学分野の集中講義を行う。(主に口腔衛生学) (担当者：川野)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 演習問題に対する自己学習を行うこと
第 4 回	総合演習問題から習熟度の低い基礎医学分野の集中講義を行う。(主に人体の構造と機能、薬理学) (担当者：八木)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 解説講義の内容を必ず復習すること
第 5 回	総合演習問題から習熟度の低い臨床歯科医学分野の集中講義を行う。(主に歯科保存学、歯周病学) (担当者：山城)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 解説講義の内容を必ず復習すること
第 6 回	総合演習問題から習熟度の低い臨床歯科医学分野の集中講義を行う。(主に歯科補綴学、口腔外科学) (担当者：山城)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 解説講義の内容を必ず復習すること
第 7 回	総合演習問題から習熟度の低い臨床歯科医学分野の集中講義を行う。(主に小児・歯科矯正学) (担当者：八木)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 解説講義の内容を必ず復習すること
第 8 回	総合演習問題から習熟度の低い臨床歯科医学分野の集中講義を行う。(主に歯科麻酔・歯科放射線学、口腔外科学) (担当者：森谷)	【事前】 これまでの学びを整理しておく 【事後】 解説講義の内容を必ず復習すること

学修の到達目標
歯科衛生士を目指すうえで、必要な知識を習得するために下記内容について「できる」ことを目指す。 1. 歯科衛生士としての職業人として、自覚を持つことができる。 2. 歯科衛生課程に必要な全科目において、総合的に最低限の知識の整理ができる。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士業務の根拠、手技について論理的に考えることができる (論理的思考力)	秀	歯科衛生士の専門領域についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科衛生士の専門領域についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士の専門領域についての知識を一定レベルで身につけている。
	可	歯科衛生士の専門領域についての知識を身につけているが十分ではない。
	不可	歯科衛生士の専門領域についての知識を身につけていない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		50	25	0	0	0	25	100
評価項目	① 論理的思考力	50	25	0	0	0	25	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目	評価の実施方法と注意点
定期試験	① レ	筆記試験
提出物	① レ	演習問題の復習、不得手な科目の重点的な学習を、学習態度・提出物等から評価する
その他	① レ	受講態度、積極的な質問、 ICT (Manaba) からによる小テスト・レポートなどへの応答状態

履修に必要な知識・技能など
私語は厳禁である。各回の講義内容は事前にその課題内容に関する事項について調べておくこと。 真摯な気持ちで演習に取り組み、解説講義を聴くこと。 講義後も自習に努めること。わからないことが生じた場合は、まず、教科書に戻ることに。
教科書・参考書
教科書：科目履修時に使用した教科書 参考書：なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 (コード番号)		授 業 形 態	単 位 数	総 時 間 数	学 年	開 講 時 期	卒 業 要 件	資 格 取 得 要 件	科目責任者名	研究室
サブタイトル									担当形態	
口腔保健特論Ⅱ (ZO2070)		講義	2	60	3	後 期	選 択	—	福田昌代	5号館3階 研究室他
歯科衛生士になるための 総まとめ学修									複数担当	
科目担当者	福田昌代、吉田幸恵、高橋由希子、上原弘美、澤田美佐緒、破魔幸恵、中村美紀、宮澤絢子、浅枝麻夢可、水村容子、氏橋貴子									

授業の概要	歯科衛生士になるために学修してきたことを、この科目で総復習して再確認し、問題解決能力を身につける。特に、歯科衛生士の主要三科目について総合的に理解できるようにする。そのために、教員がそれぞれ担当箇所を分担し、担当箇所の総合的な説明や解説を行いながら問題解決に向けた思考力と判断力を身につけて、歯科衛生士として最低限の知的基準に達することを狙いとする。	
アクティブ・ラーニングの要素	☒ ICT (manaba) 活用の双方向型授業 ☐ ディスカッション、ディベート ☐ 実習、フィールドワーク ☐ 反転授業	☐ ICT (manaba) 活用の自主学習支援 ☐ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ 課題解決型学習(外部協定 有 ・ 無) ☐ その他 ()

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 演習問題の実施・歯科保健指導（総括）（担当者：福田）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】演習問題の解説
第 2 回	歯科保健指導（食生活指導）（担当者：吉田）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 3 回	歯科保健指導（情報収集・健康教育）（担当者：宮澤）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 4 回	歯科保健指導（口腔衛生管理）（担当者：浅枝）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 5 回	歯科保健指導（口腔機能管理）（担当者：澤田）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 6 回	歯科保健指導（ライフステージ別歯科保健指導）（担当者：福田）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 7 回	歯科診療補助（臨床検査・医療安全）（担当者：上原）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 8 回	歯科診療補助（総論・保存・口腔外科・高齢者歯科）（担当者：上原）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 9 回	歯科診療補助（歯科補綴・矯正歯科）（担当者：澤田）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 10 回	歯科診療補助（小児歯科・障害者歯科）（担当者：中村）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 11 回	歯科診療補助（歯科材料・歯科放射線・救急救命）（担当者：氏橋）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 12 回	歯科予防処置（歯周病予防総論）（担当者：高橋）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 13 回	歯科予防処置（歯周病予防各論）（担当者：水村）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 14 回	歯科予防処置（う蝕予防処置）（担当者：破魔）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】授業内容の復習
第 15 回	演習問題の実施・解説・まとめ（担当者：福田）	【事前】これまでの学びを整理しておく 【事後】演習問題の解説

学修の到達目標
歯科衛生士になるための学力を身につけ、国家試験対策における主要三科目（歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助）で8割以上の知識獲得ができることを目標とする。

ルーブリック		
評価項目	評点	評価基準
① 歯科衛生士業務の根拠、手技について論理的に考えることができる。 (論理的思考力)	秀	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を非常に高いレベルで身につけている。
	優	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を高いレベルで身につけている。
	良	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を一定レベルで身につけている。
	可	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	歯科衛生士の専門領域である主要三科目についての知識を身につけていない。
① 心身の自己管理ができる。 (自己管理能力)	秀	医療職に就く者としての自覚をもち、自発的に心身の自己管理ができ、他学生の手本となる。
	優	医療職に就く者としての自覚をもち、ある程度自発的に心身の自己管理ができる。
	良	医療職に就く者としての自覚が芽生え、ある程度自発的に、心身の自己管理ができる。
	可	医療職に就く者としての自覚が芽生え、他者からの助言や指導のもと、心身の自己管理ができる。
	不可	医療職に就く者としての自覚が見られず、心身の自己管理ができない。

※()内の能力が鍛えられ、複合的に組み合わさることで、ときわコンピテンシー(知識・思考力・創造力・市民性)が強化されます。

評価方法と評価項目との関係								
評価方法		定期試験	提出物	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合		90	0	0	0	0	10	100
評価項目	① 論理的思考力	90	0	0	0	0	5	95
	② 自己管理力	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価項目		評価の実施方法と注意点
定期試験	①	レ	国家試験形式による筆記試験を実施し評価する。
	②		
その他	①	レ	授業内で実施する演習問題の成績、授業態度、積極性など
	②	レ	

履修に必要な知識・技能など
自己学習を十分に行いながら、真摯な気持ちで取り組むこと。
教科書・参考書
教科書：各科目履修時に使用した教科書 参考書：『2023 年度版 徹底分析歯科衛生士国家試験問題集』 医歯薬出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO